

科目名称	病態治療学 （呼吸器・消化器・内分泌代謝）
授業コード	BK177
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	古川 雄祐
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	看護師として診療を行う際に必要な臨床医学の基礎的知識を習得する。総論として、内科診断と治療の基本・代表的な症候とその病態生理について解説する。引き続き、呼吸器系・消化器系・内分泌代謝系の代表的疾患について病態生理・診断・治療の基礎を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師を目指す上で必要な医学知識について、医師としての臨床経験を有する教員が講義する。
到達目標	本講義は看護学科のカリキュラム・ポリシー3「看護学の基盤となる人体や病態を理解する科目と保健医療福祉を統合的に理解する科目を専門基礎科目に配置する」に対応し、ディプロマ・ポリシーにあるように、豊かな教養と倫理観を身につけ、科学的な根拠に基づいて対象者の健康と生活の質を高める看護を实践するための論理的思考力と基本的な問題解決能力を修得し、高度化・複雑化する医療に対応して看護実践する専門知識・技術を有することを到達目標とする。
計画・内容	第1回 病態治療学総論1：診察法 第2回 病態治療学総論2：検査法 第3回 病態治療学総論3：治療法 第4回 呼吸器疾患1：呼吸器の構造と機能 第5回 呼吸器疾患2：呼吸器系の症候と検査法 第6回 呼吸器疾患3：主な呼吸器疾患と診療1 第7回 呼吸器疾患4：主な呼吸器疾患と診療2 第8回 消化器疾患1：消化器の構造と機能 第9回 消化器疾患2：消化器系の症候と検査法 第10回 消化器疾患3：主な消化器疾患と診療1 第11回 消化器疾患4：主な消化器疾患と診療2 第12回 内分泌・代謝疾患1：内分泌器官の構造と機能 第13回 内分泌・代謝疾患2：内分泌系の症候と検査法 第14回 内分泌・代謝疾患3：主な内分泌疾患の診療 第15回 内分泌・代謝疾患4：主な代謝疾患の診療
授業の進め方	講義資料を事前に配布し、パワーポイントを使用して解説を加え、視覚資料を適宜活用する。
能動的な学びの実施	毎回、確認テストとその解説を行い、授業回ごとに理解度の振り返りを行う。学生への質問も行うので、積極的な授業態度を期待したい。
授業時間外の学修	予習事項：関連する基礎医学とくに解剖学・生理学・病理学を教科書で予習しておく。指定教科書の該当範囲を読んでおくことが望ましい。 復習事項：講義プリントおよび自分でとった講義ノートを必ず再読する。 合計で60時間以上を目標とする。

教科書・参考書	浅野嘉延・吉山直樹（編）「看護のための臨床病態学」改訂5版（南山堂・2023年） 浅野嘉延（編）「なるほどなっとく！内科学」改訂3版（南山堂・2023年） 講義資料を配布するので、上記の購入は必須ではない。講義資料の確認やより系統的に勉強を行いたい場合に参照のこと。
成績評価方法と基準	定期試験（80%）および講義中の質疑応答の内容（20%）により総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	定期試験の答案と解答はWebClassにUploadし、講義内で解説を行う。リアクション・ペーパーや小テストについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。学生からのコメント・ペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本科目の習得には基礎医学科目（解剖学・生理学・病理学）の知識が不可欠であるので、あらかじめ復習しておくこと。講義でも関連分野については随時復習する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業を行う。講義資料はあらかじめWebClassに登録しておく。課題を提出することで出席とみなす。質問はメールなどで随時受け付ける。 試験に替わる課題の提出（100点満点）で評価する。

科目名称	病態治療学 （精神）
授業コード	BK331
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	宮城 純子, 徳永 冴果, 渡会 恭子, 鈴木 幹夫
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	自己と社会との関係を考えて行動するために、自己の心の動きや行動の特徴などへの理解を深めることを目的としてストレスとコーピングや自己をしるための技法について学ぶ。また対人関係の心理について理解を深め、対象者の理解がより深められるために技術を学ぶ。この科目は精神科に勤務経験のある教員が講義を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は社会に中で起こりえる心の問題や、ストレスとその対処に関して精神科医師、精神科薬剤師、臨床心理士として臨床経験のある教員が、それぞれの専門分野を分担して講義を行う。
到達目標	本学のディプロマポリシーに示される「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための倫理的思考力、基本的な問題解決能力を修得する」ことを身に着けるために以下の3つを到達目標とする。 1．心の動きを行動の特徴を医学的、薬学的見地から理解する。 2．精神医療の中で治療として用いる薬剤の知識、薬理を知り心の動きや行動への影響を理解する。 3．生理学的見地より認知行動療法を理解しストレスに対する知識を深めることができる。 4．認知行動療法や様々な場面で用いるカウンセリングの特徴を理解する。
計画・内容	第1回 ライフステージに見る精神障害 （小児期）（担当 鈴木、精神科医師） （担当 宮城、看護師） 第2回 ライフステージに見る精神障害 （青年期）（担当 鈴木、精神科医師） 第3回 ライフステージに見る精神障害 （成人期）（担当 鈴木、精神科医師） 第4回 ライフステージに見る精神障害 （中年期）（担当 鈴木、精神科医師） 第5回 精神科臨床薬理（神経系の作用機序）（担当 渡会、薬剤師） 第6回 精神疾患と薬物療法（担当 渡会、薬剤師） 第7回 ストレスの予防と対処（担当 徳永、臨床心理士） 第8回 医療と心理学（担当 徳永、臨床心理士）

授業の進め方	5・授業の進め方 板書を中心に教科書に沿って講義するが、随時視覚教材を用いる。 明を受け、毎回リアクションペーパーを提出する。 テキストの説
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業時間外の学習（合計30時間程度） 予習：指示のある場合はそれに従う。指示のない回は、タイトルまたはキーワードに関してテキストを読むこと。 復習：配布資料や授業中に書き留めたメモをまとめ、ノートを作成する。（合計30時間程度）
教科書・参考書	教科書： コメディカルのための精神医学－ライフステージにみる精神障害－ 鈴木幹夫著 DTP出版 適時、資料を配布する。 参考者： 授業の中で適時指示する。
成績評価方法と基準	・成績評価方法と基準 定期試験100%
課題等に対するフィードバック	授業の中でフィードバックを行う。
オフィスアワー	キャンパススクエアを参照
留意事項	・各課題の提出期限を守ること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ・成績評価方法と基準 定期試験100%

科目名称	臨床薬理学
授業コード	BK250
英語名称	Basic Clinical Pharmacology
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	齊藤 百合花
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	薬理学は副作用等を未然に防止するため、また、医療ミスを減少させるためには不可欠な科目である。そこで、本講義では薬物の効果、作用機序、薬物動態、副作用を理解し、薬を正しく用いられるような知識と基礎力を身につけることを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	薬剤師としての実務経験を持つ教員が、新薬情報も含めて講義する。
到達目標	この科目は専門基礎分野の科目群のひとつであり、ディプロマ・ポリシーの「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得」するための科目に該当する。 薬理学は薬の取り扱いやその作用を学ぶものであり、その内容は広範囲でいずれの看護専門領域にも深くかわる。 医薬品等の持つ副作用や取り扱いにおける問題点から人体や病態を理解した上で、科学的思考ができるように指導し、将来看護師として社会の要請に対応できる基礎を身に付ける。 そのために生体作用や科学的な知識等を統合し、薬物名とその薬理作用を含めた特徴を説明できることを到達目標とする。
計画・内容	1) なぜ薬を知るべきなのか 2) 薬の基礎知識1 (薬と受容体、薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄)、血中濃度と半減期、添付文書の活用方法) 3) 薬の基礎知識2 (ジェネリック医薬品、薬価と医療保険制度、薬と用法、注射薬の吸収と投与速度、薬の粉碎と脱カプセル) 4) 基本的な薬を理解する1 (抗菌薬) 5) 基本的な薬を理解する2 (抗ウイルス薬、鎮痛薬)、 他: 抗真菌薬、消毒薬、関節リウマチ薬、痛風・高尿酸血症治療薬、片頭痛治療薬 6) 基本的な薬を理解する3 (電解質輸液)、 他: 輸血剤 薬の使い方を理解する1 (注射薬) 7) 基本的な薬を理解する4 (交感神経と副交感神経、急変時の昇圧薬、降圧薬) 他: 硝酸薬 8) 基本的な薬を理解する5 (呼吸器系作用薬、消化器系作用薬)、 他: 抗アレルギー薬 9) 基本的な薬を理解する6 (中枢神経作用薬)、

計画・内容	他：抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬 10) 基本的な薬を理解する7 (漢方薬)、 他：下剤、 薬の使い方を理解する2 (坐薬、軟膏薬) 11) 注意すべきハイリスク薬1 (糖尿病治療薬) 12) 注意すべきハイリスク薬2 (抗悪性腫瘍薬、オピオイド鎮痛薬) 13) 注意すべきハイリスク薬3 (副腎皮質ステロイド、抗不整脈薬) 他：強心薬 14) 注意すべきハイリスク薬4 (抗血栓薬)、 薬の使い方を理解する3 (貼付薬、点眼薬) 15) 入退院時に必要な薬への対応、 まとめ：医薬品情報収集方法の復習と知識の確認
授業の進め方	教科書 に添って、主にPowerPointを使用して行う。教科書 や補助教科書 を使用しながら、要点を習得できるように講義する。講義の理解を補助するために、解剖学や生理学的な知識を復習しながら身体と薬の関係を理解できるようにすることを目的とする。 ～ は教科書・参考書欄を参照
能動的な学びの実施	実践への応用として、実際に臨床で使用される文書や解説書を使って、薬の情報を読み取る練習を行う。
授業時間外の学修	予習：教科書を読む (30分～1時間)、解剖生理学の該当分野を復習する (30分) 復習：授業で習ったことをまとめる (1～2時間)
教科書・参考書	教科書： 看護の現場ですぐに役立つ 薬の基本 第2版 秀和システム 臨床場面でわかる！くすりの知識 改訂第2版 五味田裕監修 南江堂 今日の治療薬2025 浦部晶夫他編集 南江堂 補助教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 薬がみえるVol.1～4 医療情報科学研究所編集 メディックメディア
成績評価方法と基準	適宜作成する課題レポート (10%) と定期試験 (90%)
課題等に対するフィードバック	適宜講義中の口頭試問を行い、解説する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	授業中は原則としてPC・タブレット・スマートフォン・携帯電話・音楽プレーヤー等の使用を禁止する。 教科書に沿って講義するため、第1回目の授業から教科書 を持参すること (教科書 は教科書・参考書欄を参照)。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業あるいは授業動画配信によるオンデマンド授業とする 適宜作成する課題レポート (10%) と定期試験 (90%) により判定する。

科目名称	医療安全論
授業コード	BK268
英語名称	Medical Safety
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	大釜 信政, 武田 志穂
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	医療安全における看護職の責務と役割について理解を深める。医療事故発生のメカニズムと防止対策、看護における安全対策、看護学生の実習と安全について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師として病院での勤務経験をもちメディカルリスクマネージャーでもある教員が、医療安全について講義する。さらに、現役弁護士である教員が、予防接種によってB型肝炎に感染させられた患者の現状を踏まえ、医療提供の在り方や課題について教授する。
到達目標	1．安全な医療を提供するための組織や看護業務の範囲と責任の概要について述べることができる。 2．これまでの医療安全への取り組みの概要について述べることができる。 3．ヒューマンエラーの考え方を活かした事故防止策について述べることができる。 4．施設内および在宅において、安全な療養環境をチームとして組織的に提供するための看護職の役割について述べることができる。 5．医療現場に潜む危険性を判断し、危険を回避するための方策について述べることができる。 6．看護専門職としての倫理観を備え、常に安全を追求する態度の重要性について述べることができる。 7．カリキュラム・ポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展科目を配置する。」に基づいて、ディプロマポリシーに掲げる「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している。」が実現されるよう、論理的に分析・判断できる力を身につける。 この科目は、専門基礎科目群のひとつである。
計画・内容	第1回：医療安全の重要性と看護の責務（大釜、看護師） 第2回：医療安全への取り組みと医療の質の評価（大釜、看護師） 第3回：事故発生のメカニズムとリスクマネジメント（大釜、看護師） 第4回：予防接種によってB型肝炎に感染させられた患者の現状と今後の医療提供の在り方（武田、弁護士；大釜、看護師） 第5回：看護業務に関連する事故と安全対策（大釜、看護師） 第6回：看護学生の実習と安全（大釜、看護師） 第7回：特定行為実践と医療安全（大釜、看護師） 第8回：危険予知訓練の実際、本講義のまとめ（大釜、看護師）
授業の進め方	・講義とグループディスカッションを行なう。 ・事前に提示する課題に取り組んで出席すること。

能動的な学びの実施	・ 学生への問いかけをできる限り行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・ 危険予知訓練を取り入れる。
授業時間外の学修	予習：講義の内容を教科書を読んで理解しておくこと。（8時間） 復習：配布資料や教科書の内容をまとめる。（8時間）
教科書・参考書	教科書 松下由美子、杉山良子、小林美雪編集：ナース・グラフィカ 看護の統合と実践 医療安全、メディカ出版． 参考書 兵藤好美、細川京子：医療安全に生かすKYT、メヂカルフレンド社．
成績評価方法と基準	・ 定期試験100%
課題等に対するフィードバック	・ 学生の発表にはその都度、コメントする。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	本科目は、臨地実習や看護師として働く際に重要な内容である。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法と基準 ・ 定期試験100%

科目名称	保健医療福祉行政論（行政の仕組み）	
授業コード	BK332	
英語名称		
学期	2025年度前期	
単位	2.0	
担当教員	糸井 和佳, 中田 祥恵, 古俣 理子, 新規未定教員, 高木 悦子	
記入不要 ナンバリングコード		
授業の概要	保健医療福祉制度の成り立ちや目的、仕組み、保健医療福祉サービスについて理解し、保健医療福祉計画の策定プロセスについても理解を深める。行政保健師の経験のある教員（糸井・高木）と保健所職員（中田）から、実践例を含めて講義する。	
科目に関連する実務経験と授業への活用	行政保健師としての経験を持つ教員が、公衆衛生行政及び高齢者福祉、児童福祉など社会保障制度について、実務経験を踏まえたうえでの事例を紹介しつつ授業を行う。 また、現在保健所に勤務している非常勤講師により、実践を踏まえた身近な食品衛生に関する授業を行う。	
到達目標	本授業はディプロマポリシーの「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有している」を獲得するための科目である。 カリキュラムポリシーの「看護学の基盤となる人体や病態を理解する科目と保健医療福祉を統合的に理解する科目を、専門基礎科目に配置する。」に当たる科目であり、具体的には以下の1～5項目を到達目標とする。 1.我が国の保健医療福祉行政の理念と仕組みの基礎知識を学び、説明することができる。 2.公衆衛生行政についての概要を理解し説明することができる。 3.社会保障制度の基礎知識を学び、説明することができる。 4.保健医療福祉の計画と評価について理解できる。 5.保健医療福祉の連携と看護職の役割について理解し説明することができる。	
計画・内容	第1回 保健医療福祉行政の基本 社会保障の理念と背景 糸井（保健師） 第2回 公衆衛生政策の理念と背景 糸井（保健師） 第3回 保健医療福祉における行政の理念と仕組み 糸井（保健師） 第4回 保健医療福祉における財政の理念と仕組み 糸井（保健師） 第5回 公衆衛生行政分野の制度と概要 糸井（保健師） 第6回 地域保健における食品衛生 中田（足立区職員）	

計画・内容	第7回 医療制度と政策 医療保険、医療計画 糸井（保健師）
	第8回 社会保障・福祉制度 年金制度、雇用保険、公的扶助（生活保護）、措置制度と給付制度 糸井（保健師）
	第9回 社会保障・福祉制度 障害者（児）支援、障がい者総合支援法 高木（保健師）
	第10回 社会保障・福祉制度 子ども・家庭福祉、子育て支援に関する施策 高木（保健師）
	第11回 介護保険制度と医療・介護・福祉の包括的な連携 高木（保健師）
	第12回 地方公共団体の保健医療福祉計画 行政計画と基本構想、健康増進計画、介護保険事業計画、他 高木（保健師）
	第13回 地方公共団体の保健医療福祉計画策定のプロセス 現状課題、ニーズ把握、目標値設定、住民参加、実施と評価 高木（保健師）
	第14回 母子保健対策 基盤となる法規と近年の政策の動向 糸井（保健師） 第15回 総括 糸井(保健師)
授業の進め方	・授業中にプリントを配布し、授業内容理解の確認を行う。 ・必要に応じて、内容の補足プリントを配布する。 ・リアクションペーパーにて、学習の理解を図る。 ・必要に応じて映像資料を活用し学習の理解を深める。
能動的な学びの実施	ワークシートの提出と保健医療福祉計画等の策定に関するグループワークを実施することで、理解を深める。
授業時間外の学修	・授業時に配布された課題ワークシートを完成させること。（各回1時間程度） ・各单元について教科書を読み予習復習を行う。（各回1時間程度）
教科書・参考書	【教科書】 ・保健学講座5「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社（試験持ち込み可） 【参考書】 ・厚生指針 国民衛生の動向（厚生統計協会）
成績評価方法と基準	・課題ワークシートの提出（20%） ・定期試験 課題レポート（80%） ・提出期限を過ぎた場合は、減点とする。
課題等に対するフィードバック	・課題ワークシートやポイントについては授業内で解説を行う。 ・リアクションペーパーの内容を参考に授業への反映を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。メールで連絡してください。 itoi@ntu.ac.jp
留意事項	

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ZOOMによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 成績評価 課題学修提出（20％）と定期テスト（オンライン）（80％）により評価する。
------------------------------------	---

科目名称	看護学概論（看護学科）
授業コード	BK103
英語名称	Introduction to Nursing Science
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	石田 清美
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	「看護とはなにか」について、一人ひとりが考えつづけ、自分の看護観を構築するための手がかりを得られるよう講義する。看護学の主要な概念である「人間」、「健康」、「環境」、「看護」について講義・自己学習・グループ学習などを通して学び、看護の専門性や看護の機能・役割について明らかにする。そして看護の理論や看護活動の場、関連法規について学び、看護を実践していくうえで看護専門職を目指すものとしての姿勢や態度を探究する。さらに看護職としてチーム医療の担い手としての役割を学ぶ。看護学が発展していくための課題を追求し続ける意識と態度を培う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・授業において、看護師として臨地経験のある教員が、医療現場の課題について多面的な視点と実務経験を活かして講義する。
到達目標	・この科目は、専門分野の「看護の基本」の科目の一つである。・ディプロマ・ポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけている。」「科学的な根拠に基づき、対象の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している。」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している。」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職としての倫理的な行動がとれる。」「看護の発展に貢献しうる看護専門職としての主体的学修能力を身につけている。」を達成する。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「対象の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる。」「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展を理解する。」以上をふまえ、以下の8つを到達目標とする。 1. 生活者である人間に対して、看護はどのような役割を果たすか。また、個人だけでなく家族・集団・地域も看護の対象であることを理解する。2. 「健康とは」「障害とは」なにか、「健康」「障害」をどのようにとらえるべきかを理解する。3. 看護が現在のかたちになるまでの歴史的変遷と、さまざまな理論家による看護の捉え方を理解できる。4. 倫理とはなにか、看護職を目ざすなかで、看護職がどのような倫理規定をもち、どのように活用できるか考え理解することができる。5. 看護をめぐる制度と政策を理解する。6. 「看護とはなにか」を考える際の「サービスとしての看護」を理解する。7. 国際看護学の流れを把握し、国際的にどのような健康問題が課題であるのか理解する。8. わが国における看護職の成立と発展、看護職の資格と養成制度について学び、看護職者の免許取得後の継続教育の概要を理解し、看護職としての「キャリア開発」について考察できる能力を培う。
計画・内容	第1回 看護の基本概念 「看護の役割と機能」 第2回 看護の基本概念 「健康」「環境」「看護」 第3回 看護をめぐる制度 「看護職の資格・養成制度・就業状況」 第4回 看護学教育の歴史の変遷と課題 「職業としての看護」 第5回 看護サービス提供の場 第6回 国民の健康状態と生活

計画・内容	第7回 看護の対象と健康のとらえ方 第8回 看護の対象と健康と環境のとらえ方 第9回 看護実践における理論的根拠 F・ナイチンゲール看護論、V.ヘンダーソン看護論 第10回 看護の継続と情報共有 第11回 保健医療福祉サービス提供システム 第12回 医療安全と看護倫理 「医療安全管理」 第13回 医療安全と看護倫理 「命の尊厳と看護倫理」 第14回 生涯教育とキャリア発達 第15回 これからの看護師に求められること
授業の進め方	1. 授業の進め方は、講義を中心とするが、グループワーク、ディスカッションなどを適宜組み合わせで行う。授業では自己の考え、感じたこと等述べ、他者の意見を聴く等、積極的に参加することを期待する。随時小テストも行う。授業の進行状況によって授業内容を変更する場合がある。 2. 授業時間外の学習は、予習・復習の指示に基づいて学習する（予習：1時間程度、復習：1時間程度）。タイトルまたはキーワードに関して基本的な理解を得ておくこと。キーワードに関しては予習で授業前に言葉の意味を調べ授業に臨む。
能動的な学びの実施	・学生への質問も活発に行うので、積極的な授業態度が期待される。 ・グループ分けを行い、課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	予習：1時間程度。復習：1時間程度。 予習：授業内容についてテキストや参考文献を読み、学習した内容をレポートする。 復習：配布資料や授業中書き留めたメモなどをまとめ、ノートを作成する。また、課題に基づきレポートする。
教科書・参考書	<教科書> 茂野香おる 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 看護学概論 医学書院 F.ナイチンゲール：「看護覚え書」現代社 V.ヘンダーソン 湯楨 ます訳：「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 *他教材は適宜プリントを配布しながら行う。筆記用具、ノート、教材や資料を保管するためのA4版のファイルを各自準備すること。 <参考書> T.ヘザー ハードマン他、上鶴重美：「NAND 看護診断 定義と診断」医学書院 M.メイヤロフ；田村真訳；ケアの本質—生きることの意味—、ゆるみ出版 パトリシア・ベナー；井部俊子監訳 ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ 医学書院 茨木保：ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに 医学書院（まんがによる生涯と看護覚え書）
成績評価方法と基準	授業での発表内容、課題レポート、学びの振り返りシート、小テストなど（40%）と定期試験(60%)を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小テストについては、授業開始時にフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	この授業は、自己の看護観を深め看護学の基礎を学ぶ科目である。看護の歴史的変遷を我国と諸外国とを比較し、現状と課題を考えていく力を養って行きます。また、自分の考えを他者に伝える力も重要になってきますので、共通科目、専門基礎科目をしっかり履修すること。

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合 Zoom によるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題 40%と期末レポート 60%で評価する。
------------------------------------	---

科目名称	基礎看護学実習（対象の理解）
授業コード	BK000
英語名称	Basic Nursing Practicum 1
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大出 順, 園山 真由美, 大森 美保, 石田 清美, 辻 由紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	【実習目的】 入院生活を送る看護の対象とのかかわりや看護師が行う援助場面から、その場の共有やコミュニケーションを通して、対象の療養生活について理解を深める。また、看護活動の実際を学び、看護への理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・看護師として臨床経験のある教員が全て担当する。
到達目標	・この科目は、専門科目の「看護の実践」の科目の一つである。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する」の実現と、ディプロマ・ポリシーに掲げる「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」ことが実現できるよう、以下を実習目標とする。 【実習目標】 1．病院見学を通して、病院の機能・役割を知る。 2．対象の療養生活について理解する。 3．対象との人間関係を形成するためのコミュニケーションについて考える。 4．対象の反応や会話の中から情報を得て、対象の考え・思いを理解する。 5．対象の安全・安楽・自立(自律)を踏まえ、個別性に配慮した看護援助の実際について考える。 6．看護援助場面の見学および参加を通して、看護の役割や機能について考える。
計画・内容	1)実習期間 1クール目： 2025年9月 1日（月）～ 9月 5日（金）（学内含む） 2クール目： 2025年9月 8日（月）～ 9月12日（金）（学内含む） * 上記期間外に実習オリエンテーションあり 2)実習内容 1日目（学内 / 臨地実習） （学内） 実習オリエンテーション （臨地実習） 実習施設の看護部長等からの講義 実習施設の見学 実習病棟オリエンテーション 担当教員：大出、石田、大森、辻、園山(全員看護師) 2日目（臨地実習） 看護場面の見学、コミュニケーションへの参加から看護の実際を学ぶ 担当教員：大出、石田、大森、辻、園山(全員看護師)

計画・内容	3日目（臨地実習） 看護場面の見学、コミュニケーションへの参加を通して看護の役割や機能について考える 担当教員：大出、石田、大森、辻、園山(全員看護師) 4日目（臨地実習） 看護場面の見学、コミュニケーションへの参加を踏まえ、カンファレンス等で学びを深める 担当教員：大出、石田、大森、辻、園山(全員看護師) 5日目（学内） 実習記録の整理 実習自己評価 実習評価面接 担当教員：大出、石田、大森、辻、園山(全員看護師) 上記内容を実習要項に沿って行う。 * 実習要項はオリエンテーション時に配布する 3)実習場所 済生会向島病院 三井記念病院 獨協医科大学埼玉医療センター 日本医科大学武蔵小杉病院 東京都健康長寿医療センター * 学生配置は確定後オリエンテーションまたは掲示を通して周知する
授業の進め方	1. 事前に履修した内容（療養環境や対象をどう理解するか、日常生活援助技術など）を復習して実習に臨む。 2. 実習施設の概要や看護部の方針などについてオリエンテーションを受ける。 3. 実習施設の各部門の構造・役割の説明を受けながら見学する。 4. 担当看護師・実習指導者、担当教員からの説明や共に治療、検査、看護場面の見学・参加などを通し、対象との直接的な体験を中心に学ぶ。 5. 対象とコミュニケーションを深める。 6. カンファレンスで学びを共有する。 7. 実習最終日は、実習の学びを整理し学びについて指導教員と面接し実習の自己評価を行う。
能動的な学びの実施	臨地実習において、対象者ならびに実習指導者や教員との積極的な関わりが必要となる。 学生が主体となり、毎日のカンファレンスで学びの共有や今後の課題の明確化を行う。
授業時間外の学修	1. 看護学概論（病院の機能と役割、「看護覚え書」等について）、基礎看護技術 -1（環境整備、コミュニケーション、移乗・移送、バイタルサイン測定）等の既習学習の内容を復習しておく。 2. 実習進行計画に合わせて所定の記録用紙に記載する（毎回2～3時間程度）
教科書・参考書	テキストの指定はないが、既習科目の学習内容、関連する文献を活用すること。 また、オリエンテーション時に配布する実習要項（看護学実習共通要項、基礎看護学実習 実習要項）を参照のこと。
成績評価方法と基準	単位認定と評価 1) 認定要件 実習時間が充足され、かつ実習内容を満たした者に対して評価を行い単位認定する。 2) 評価 評価表に基づき以下の項目を総合して評価する。 病院見学を通して、病院の機能・役割を知る（12点） 対象の療養生活について理解する（12点）

成績評価方法と基準	対象の人間関係を形成するためのコミュニケーションについて考える（12点） 対象者の反応や会話の中から対象の思いを知る（12点） 安全・安楽・自立（自律）をもとに、対象の個性に配慮した看護援助の実際について考える（12点） 看護援助場面の見学および参加を通して、看護の役割や機能について考える（12点） 学習者として適切な行動ができる（12点） 事後学習課題レポート（16点） 詳細は配布する実習要項を参照すること。
課題等に対するフィードバック	臨地実習での課題に関しては、随時、その場でフィードバックしていく。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・基礎看護学実習 を履修する学生は必ず実習前のオリエンテーションに参加すること。オリエンテーションの日程は掲示等で周知する。オリエンテーションに参加していない学生は原則として履修を認めない。 ・記録物やレポート等は期限内に提出すること。期限内に提出しない場合は、履修放棄の扱いとする。 ・筆記用具、メモ帳、教材や資料を入れるバッグを準備すること。また、実習要項や実習記録を閉じるA4版のファイルを準備すること（実習前のオリエンテーションで必要物品について伝えます）。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	COVID-19による感染状況により、臨地実習を中止せざるを得ない可能性もある。 その時は、動画視聴やオンラインによる講義やディスカッションを通じて代替とする。 評価方法は実習要項に準ずる。

科目名称	基礎看護学実習（基盤：病院）
授業コード	BK270
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	園山 真由美, 大出 順, 大森 美保, 石田 清美, 辻 由紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	一人の対象を受け持ち、看護過程の展開を行なう。看護師として病院で勤務経験のある教員が実習指導を行い、看護の対象を総合的に理解し、よりよい健康状態に向け日常生活を整えるために科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師として病院での勤務経験のある教員が、アセスメント・看護診断・計画・実施・評価について指導を行う。
到達目標	この科目は、専門分野の「看護の実践」科目のひとつである。 ディプロマポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有している」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」を実現するよう、カリキュラムポリシーの「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する」という方針のもと、以下を到達目標とする。 1.対象の全体像を把握し、対象にあった看護計画を立案・実施・評価する 1) 対象のアセスメントを適切に行う 2) 対象の看護診断を明らかにする 3) 対象にあわせた看護計画を立案する

計画・内容	1. 日程 前半グループ：2026年2月9日～2月20日（2週間） 後半グループ：2026年2月24日～3月6日（2週間） 2. 場所 首都圏の医療機関4施設 3. 実習方法 原則として成人期・老年期の対象を1名受け持ち、看護過程を展開する。 4. 担当教員 看護師として実務経験のある、基礎看護学の教員（石田・大森・辻・大出・園山）と非常勤教員で担当する。 5. 実習進行計画 1週目：対象の情報収集、情報の整理・分析、看護診断の抽出、全体関連図の作成、援助場面の見学・実施 2週目：看護計画の立案、計画の実施・評価
授業の進め方	1. 実習オリエンテーションを3回実施する 実習オリエンテーション：12月 実習概要、実習における注意事項の説明 実習オリエンテーション：1月上旬 実習カンファレンスの演習、バイタルサイン測定の技術チェック 実習オリエンテーション：2月5日 実習施設、実習病棟の説明 2. 実習指導体制 臨地実習では、学生約5名/1グループに1名の教員を配置し、施設の実習指導者および教員の指導のもと実習を行う。日常生活援助技術の実施にあたっては、「基礎看護学実習における看護技術」に則って、実習指導者または教員の指導・助言を得ながら行う。 3. 受け持ち患者（対象）の条件は以下を考慮する ・日常生活動作に援助が必要な対象 ・言語的コミュニケーションがとれる対象 ・病状に急激な変化が予測されない対象 ・重症でない対象 以上は、原則であり実習病棟の入院患者構成の状況によっては必ずしもこの通りではない。 4. 記録物について ・行動計画用紙（毎日記載する） ・援助計画学習用紙（援助技術ごとに援助内容を記載する） ・実習記録用紙 アセスメント・全体関連図・問題リスト・看護計画・叙述的経過記録について、受け持ち患者（対象）1名に対し、一式を記載する。
能動的な学びの実施	毎日カンファレンスを行い、患者の援助方法や全体関連図、看護計画等について意見交換を行い学びを共有する。
授業時間外の学修	1. バイタルサイン測定、ヘルスアセスメント、日常生活援助技術など、既習学習の内容を復習しておく。 2. 担当する可能性が高い疾患の症状、検査、治療、看護について調べてまとめる。（実習前に担当教員より伝える） 3. 実習進行計画に合わせて所定の記録用紙に記載する（毎日2～3時間）
教科書・参考書	テキストの指定はない。既習科目の講義・演習資料、関連する文献を活用すること。

成績評価方法と基準	実習要項に示した評価表に基づいて、下記を総合的に評価する。 看護計画の立案・実施・評価（52％）、医療チームの一員としての責務と態度（20％）、主体的な実習（16％）レポート「自己の学習課題の明確化」（12％）とする。
課題等に対するフィードバック	行動計画用紙、アセスメント、看護計画等の記録物には日々コメントをつけてフィードバックする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	1．履修要件を満たしていることが必要となる。 ・看護学概論、基礎看護技術、基礎看護学実習の単位が修得済みであること ・ヘルスアセスメントが履修済みであること 2．実習オリエンテーションには必ず出席するとともに、実習要項および実習共通要項を熟読し、実習に備える。 3．学生一人一人が受け持ち患者の個別的な看護計画を立て、療養生活されている方と関わる実習のため、積極的にに関わり、「看護とは何か」に照らし合わせながら、自己の看護実践の意味を表現できるように自らを高めていくことが望まれる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	臨地実習が実施できない場合の進め方 学内実習とし、Zoomを使用したOnline実習と、可能な範囲で演習を実施する。 評価方法（評価内容、方法の変更はない） 看護計画の立案・実施・評価（52％）、医療チームの一員としての責務と態度（20％）、主体的な実習（16％）レポート「自己の学習課題の明確化」（12％）とする。

科目名称	成人看護援助論 - 1 (慢性期)
授業コード	BK216
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	武田 清香, 大釜 信政, 寺門 亜子, 川副 樹, 清野 純子, 石渡 智恵美, 角田 知穂
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	慢性・長期的疾患に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解することに加え、慢性・長期的疾患をもつ人とその家族に対するセルフケア向上のための理論とその利用方法、援助方法の実際について教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	当該科目を担当する全教員が、医療機関における看護経験を有している。その経験も踏まえながら、慢性・長期的疾患をもつ人とその家族に対する看護の実際について教授する。
到達目標	この科目は、「看護援助の方法」に関する科目の一つである。本科目は、カリキュラム・ポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展科目を配置する。」に基づいて、ディプロマ・ポリシー「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している。」を目指し、以下の4つを達成目標とする。 1. 慢性・長期的疾患とともにをもつ人の健康状態の特徴について多面的に述べることができる。 2. 慢性・長期的疾患をもつ人の家族の状況について述べるができる。 3. 慢性・長期的疾患をもつ人に必要とされる看護の実際について理論を踏まえて述べるができる。 4. 慢性疾患と共に生活する人の倫理的諸問題について自身の考えを深化させ述べるができる。 5. 慢性疾患と共に生活する人とそのご家族への看護援助について自身の考えを深化させ述べるができる。
計画・内容	1.オリエンテーション/慢性期疾患を有する人とその家族の理解、慢性期疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 2.呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性閉塞性肺疾患）担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 3.循環器系の障害を有する人とその家族への看護（不整脈）担当：大釜、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 4.循環器系の障害を有する人とその家族への看護（ペースメーカー装着患者）担当：大釜、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 5.循環器系の障害を有する人とその家族への看護（虚血性心疾患）担当：大釜、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 6.循環器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性心不全）担当：大釜、看護師

計画・内容	予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 7.消化器系の障害を有する人とその家族への看護(肝硬変) 担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 8.腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への看護(慢性腎不全) 担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 9.代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への看護（糖尿病・インスリン療法）担当：武田、看護師 予習：教科書教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 10.代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への看護（血糖自己測定演習オリエンテーション）担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 11.技術演習（血糖自己測定） 担当：武田・大釜・寺門・清野・石渡・川副・角田、看護師 註)指定された時間までに、演習を行う実習室に集合すること。 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、自己血糖測定についてまとめる。 12.がんを患う人とその家族への看護（化学療法） 担当：寺門、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 13.がんを患う人とその家族への看護（放射線療法） 担当：寺門、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 14.血液・免疫系の障害を有する人とその家族への看護（急性骨髄性白血病）担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。 15.血液・免疫系の障害を有する人とその家族への看護（関節リウマチ）/まとめ 担当：武田、看護師 予習：教科書を用いて講義に関連する内容を読み込む。 復習：教科書や講義資料等を活用し、関連内容についてまとめる。
授業の進め方	解剖生理学、病理学、病態治療学、臨床薬理学などの専門基礎科目を理解していることを前提に、代表的な慢性・長期的疾患の病態、治療、看護について教授する。
能動的な学びの実施	自己血糖測定演習のレポート課題、指定のテーマを基に論じるレポート課題の提出が2回含まれている。適時、学生間でのワークを実施する予定であるため積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	予習は各回1時間程度、復習は各回1～2時間程度行うことが必要である。定期試験や臨地実習で活用できるよう、これまでの授業資料および自作の復習ノートなどを用いてまとめること。
教科書・参考書	指定教科書：成人看護学 慢性期看護，鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美編集，南江堂（改訂第4版） *参考文献：生体機能学、病理学、病態治療学、臨床薬理学の教科書や資料

成績評価方法と基準	・成績評価方法と基準 定期試験（80％）、レポート（20％）
課題等に対するフィードバック	必要に応じてリアクションペーパーの内容を授業に反映させる。
オフィスアワー	CampusSquareを参照 本科目講義終了後やメール等で、適宜、質問を受け付ける。
留意事項	定期試験の受験資格や単位認定の条件として、総授業時間数の3分の2以上の出席が必要になる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoom対面によるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ZoomのURLや授業資料などはCampus Squareに提示し配信する。 Zoomの参加と課題提出状況で出欠席を登録し、3分の2以上の出席を条件として、定期試験（80％）、レポート（20％）で評価する。

科目名称	成人看護援助論 - 1 (急性期・周術期)
授業コード	BK218
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	清野 純子, 川副 樹, 石渡 智恵美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	急性期 (生体に対する何らかの侵襲により健康状態が急激に変化する時期) における対象者の病態生理、治療や特徴を学ぶ。そして、生命の維持、苦痛の緩和、日常性および生活機能の回復を促進するために根拠に基づいた看護援助について学ぶ
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、看護師としての臨床経験のある教員が担当する。
到達目標	・この科目は、専門分野の「看護援助の方法」の科目の一つである。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「科学的思考に基づいた専門知識と技術を身につけた看護専門職を育成する」に基づく科目である。 ・本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「人間の尊厳と生命を尊重する姿勢に基づき、対象者に対する倫理的判断ができる」が実現するよう、以下の3つを達成目標とする。 1. 周術期における術後合併症とその発生機序および看護援助方法を説明できる。 2. 疾病や治療を理解し、成人期にある対象の急性期・周術期に必要な援助方法を説明できる。 3. 生命の危機を呈する対象の倫理的諸問題について説明できる。
計画・内容	第1回 (4/14・5限) ガイダンス (シラバス説明、課題)、周術期看護とは (担当: 清野、看護師) 第2回 (4/21・5限) 手術および麻酔侵襲と生体反応 (担当: 清野、看護師) 第3回 (4/28・5限) 術後合併症予防と発症時の援助 (肺合併症、循環不全・出血) (担当: 清野、看護師) 第4回 (5/12・5限) 術後合併症予防と発症時の援助 (イレウス、術後感染) (担当: 清野、看護師) 第5回 (5/19・5限) 術後合併症予防と発症時の援助 (深部静脈血栓・肺塞栓症、せん妄、疼痛) (担当: 清野、看護師) 第6回 (5/26・5限) 手術前、術後の看護とアセスメントの視点 (倫理的配慮配慮含む) (担当: 清野、看護師) 第7回 (6/2・5限) 循環機能の再確立 (心筋梗塞、冠動脈バイパス術) (担当: 清野、看護師) 第8回 (6/9・5限) 呼吸機能の再確立 (肺葉切除術) (担当: 石渡、看護師) 第9回 (6/16・4限) 消化機能の再確立 (腹腔鏡下胆嚢切除術) (担当: 川副、看護師) 第10回 (6/23・4限) 摂取機能の再確立 (胃切除術) (担当: 石渡、看護師) 第11回 (6/30・4限) 排泄機能の再確立 (大腸切除術) (担当: 川副、看護師) 第12回 (7/7・4限) 運動機能の再確立 (人工股関節置換術、椎間板ヘルニア) (担当: 石渡、看護師) 第13回 (7/14・4限) 排泄機能の再確立 (腎・泌尿器疾患) (担当: 川副、看護師) 第14回 (7/24・木曜・4限) 生殖機能の再確立 (乳房切除術、子宮摘出術) (担当: 石渡、看護師) 第15回 (7/28・4限) 統制機能 (脳神経機能) の再確立 (くも膜下出血) /まとめ (講義担当: 川副 / まとめ担当: 清野・石渡・川副、全員看護師)
授業の進め方	講義では、既習した専門科目 (解剖生理学、病態治療学など) と関連させながら展開する。 また、主に教科書を中心にパワーポイントを使用した講義形式および映像資料なども適宜活用する。
能動的な学びの実施	周術期における看護の理解を深め、臨地実習で活用できる知識を修得できるよう、自己学習した課題を提出し、学習内容について教員からコメントを行う。

授業時間外の学修	・予習・復習として授業に関連した事柄について教科書を読み、整理する。また指定された課題を提出し内容の理解につなげる（各回1時間程度）：合計15時間程度
教科書・参考書	【教科書】 1. 林直子・佐藤まゆみ（2023）：急性期看護 成人看護学 概論・周手術期看護 改訂第4版，南江堂 2. 野崎真奈美他（2022）：成人看護学 成人看護技術(改訂第3版)，南江堂 【参考図書】 1. 雄西智恵美（2014）：周手術期看護論 (成人看護学)，ヌーベルヒロカワ 2. 佐藤まゆみ・林直子（2023）：成人看護学 急性期看護II クリティカルケア改訂第4版，南江堂 3. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第3版，医歯薬出版株式会社 4. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護第3版，医歯薬出版株式会社 5. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護第3版，医歯薬出版株式会社 6. 大滝 周，大木友美（2018）：周術期看護 学習ワークブック，メヂカルフレンド社 7. 中村美和子監修（2022）：周術期看護 安全・安楽な看護の実践 改訂第2版，インターメディカ 8. 本庄恵子・吉田みつ子監修（2020）：新訂版 写真でわかる 臨床看護技術2アドバンス，インターメディカ 9. 畠田理佳 編集（2021）：経過別成人看護学 周術期看護，メヂカルフレンド社
成績評価方法と基準	・評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。 ・定期試験（80％）、課題（20％）で評価する。
課題等に対するフィードバック	1. リアクションペーパーに対して ・質問・疑問に対して、授業開始時にフィードバックを行なう。 2. 課題に対して ・提出内容について、全体にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・基礎となる解剖生理学、病態治療学、基礎看護技術、成人看護学関連科目などよく学習し授業に臨んで下さい。 ・本科目は臨地実習や国家試験にかかわりが深く、侵襲による身体変化とその看護を理解するためには、予習復習を行うことが大切です。 ・講義、課題提出は主体的な姿勢で臨んで下さい。 ・出席確認は原則カードリーダーで行います。学生証を忘れた場合は、授業開始前に担当教員に申し出て下さい。 ・授業開始後30分までは遅刻とみなし、それ以降は欠席扱いとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ZOOMによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・定期試験（80％）、課題（20％）で評価する。

科目名称	成人看護学実習（慢性期・終末期）
授業コード	BK371
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	寺門 亜子, 大釜 信政, 武田 清香
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この実習では、慢性・長期的な疾患や障害のある患者の病態、治療および、患者・家族が病とともに生活することによって生じる日常生活への影響を理解する。 また、患者・家族が慢性・長期的疾患や障害とともに生活するために必要となるセルフケア行動を習得し、患者が自分らしく生活するために、支援者として患者の尊厳と権利を擁護し、より良い関係を形成しながら支援ができる看護実践能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この実習では、看護師としての臨床経験のある教員が実習指導を行う。
到達目標	この科目は、「専門科目 看護の実践（成人看護学）」に関する科目の一つである。本科目では、カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する。」に基づいて、ディプロマ・ポリシー「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」を目指し、以下の6つを達成目標とする。 1. 患者の病態や治療について理解し、病態や治療、検査に伴う症状の管理、苦痛や不安を緩和するための援助ができる。 2. 慢性期にある患者が、病気とともに自分らしく生活するために必要となる看護過程が展開できる。 3. 患者・家族の発達段階、価値観や信念、生活習慣を理解し、慢性・長期的な疾患や障害をもちながらも病状を安定させ、自分らしく生活するための援助ができる。 4. 患者・家族が経験している病の体験を共有し、慢性・長期的な疾患や障害をもちながら生活する人やその家族の精神状況について考えることができる。 5. 慢性・長期的な疾患や障害をもつ人が活用できる社会資源（人的・物的・制度など）について考えることができる。 6. チーム医療の中で看護専門職者として連携、協働し、また学修者として求められる基本的態度や倫理観を身につけることができる。
計画・内容	2025年9月22日～2026年1月23日 1クール目 2025年9月22日（月）～2025年10月3日（金）計90時間 実習施設：東京臨海病院、東京山手メディカルセンター 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師 2クール目 2025年10月20日（月）～2025年10月31日（金）計90時間 実習施設：東京臨海病院、東京山手メディカルセンター 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師 3クール目 2025年11月10日（月）～2025年11月21日（金）計90時間 実習施設：がん・感染症センター都立駒込病院 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師 4クール目 2025年11月25日（火）～2025年12月5日（金）計90時間

計画・内容	実習施設：がん・感染症センター都立駒込病院 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師 5クール目 2025年12月8日（月）～2025年12月19日（金）計90時間 実習施設：がん・感染症センター都立駒込病院 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師 6クール目 2026年1月13日（火）～2026年1月23日（金）計90時間 実習施設：東京臨海病院、東京山手メディカルセンター 担当教員：大釜、寺門、武田 看護師
授業の進め方	1. 受け持ち患者について - 慢性・長期的な疾患や障害のある成人期にある患者を受け持つ。 - 学生の受け持ちに承諾が得られた患者を対象とし、実習期間中に、学生1名につき患者1名を受け持つ。 2. 実習指導体制 実習指導体制は、基本的には学生5～6人に対して教員（非常勤教員を含む）1人を配置し、教員（非常勤教員を含む）および病棟看護スタッフの指導を受けながら、受け持ち患者の看護を展開する。
能動的な学びの実施	情報収集、アセスメント、看護診断、看護計画の立案・実施・評価を行っていくため、自発的に実習に取り組むことが求められる。 学生主導のカンファレンスを行う。
授業時間外の学修	指示された事前課題を行うこと。事前課題は、計画を立てて領域実習開始までに終わるようにすること。 実習中は、実習スケジュールに沿って看護過程を展開できるようタイムリーに記録を行うこと。行動計画は、援助の根拠・留意点、受け持ち患者のニーズに基づいて具体的に記載すること。実習中は記録の整理や疾患や検査などの学習に2～3時間必要である。
教科書・参考書	成人看護援助論 ・ 、専門基礎科目（生体機能学、栄養代謝学、病態治療学、臨床薬理学、臨床検査など）の教科書や講義資料を活用すること。
成績評価方法と基準	事前課題、実習における看護援助・カンファレンスの出席状況、実習に取り組む姿勢や態度等55%、実習記録45%
課題等に対するフィードバック	必要に応じて、その都度、口頭もしくは実習記録へのコメントの付与によってフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	感染症発生状況等により、スケジュールが変更になる可能性がある。その際は、別途、お知らせする。 実習2週間前から健康観察シート（成人看護学実習用）に体温等を記載すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面となった場合は、対面およびzoom等を活用した双方向型の遠隔形態により実習を進める。また、その際の成績評価は、学内実習への参加態度40%や提出された実習記録50%、事前課題10%の遂行状況等を基に行う。

科目名称	成人看護学実習（急性期・周術期）
授業コード	BK372
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	石渡 智恵美, 川副 樹, 清野 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	急性期 / 周手術期にある対象者を多面的・総合的に理解し、対象者の疾患とその症状および身体侵襲により生じる変化に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。また、成人期の発達課題や健康問題、治療方法の違いによる看護援助を把握し、成人看護学に対する理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	実習指導は、看護師として臨床経験のある教員が臨地での実習指導を行う。
到達目標	・この科目は、専門分野の「看護の実践」の科目であり、カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する」に基づく。 ・本学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」の実現と「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」を実現するよう、以下の7つを到達目標とする。 1. 身体侵襲を伴う治療を受ける対象とその家族を多面的に理解できる。 2. 身体侵襲を伴う治療を受ける対象とその家族の心身の変化（術前・術中・術後）に応じた看護診断/看護上の問題が判断できる。 3. 身体侵襲を伴う治療を受ける対象の心身の変化（術前・術中・術後）に応じた看護計画が立案できる。 4. 手術に必要な検査・治療・処置および手術侵襲を理解し、合併症の予防・早期発見、機能回復のための援助を安全に実施できる。 5. 身体侵襲を伴う治療を受ける対象に実施した援助を評価できる。 6. チーム医療の中で看護専門職者として協働し、また学修者として求められる基本的態度や倫理観を身につけることができる。 7. 看護実践を通して、看護に対する自己の見方、考え方を深め、看護の役割を理解できる。
計画・内容	・実習期間と実習病院については、下記の通りである。ただし、実習病院は変更になる場合もある。 ・成人看護実習（急性期）の実習グループは、元々のグループを新たに編成しなおす場合もある。 5G・6G・7G 2025年9月22日（月）～ 2025年10月3日（金）計90時間 実習施設：春日部市立医療センター、同愛記念病院 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師） 8G・9G・10G 2025年11月10日（月）～ 2025年11月21日（金）計90時間 実習施設：春日部市立医療センター、九段坂病院 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師） 1G・2G・3G 2025年11月25日（火）～ 2024年12月5日（金）計90時間 実習施設：東京臨海病院、日本医科大学武蔵小杉病院 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師） 11G・12G・13G 2025年12月8日（月）～ 2025年12月19日（金）計90時間

計画・内容	実習施設：東京臨海病院、同愛記念病院 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師） 4G・14G・15G 2026年1月13日（火）～2026年1月23日（金）計90時間 実習施設：獨協医科大学埼玉医療センター、東京都立駒込病院 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師） 16G・17G・18G 2026年1月26日（月）～2026年2月6日（金）計90時間 実習施設：春日部市立医療センター、獨協医科大学埼玉医療センター 担当教員：清野、石渡、川副（全教員看護師）
授業の進め方	・実習は、臨地実習7日間、そのほか学内実習（学内）を行う。 - ただし、感染予防の観点から臨地（病院）実習時間が短縮される場合もある。その際には、学内実習として補う。 ・臨地実習での実践を積極的に行えるよう事前学習で知識や技術の学習を行い、そして臨地実習に臨めるようにする。 ・実習初日の学内実習では、術後帰室時の演習を行い、臨地実習で術後帰室時の看護が実践できるようにする。 【事前課題学習について】 ・実習前に事前課題を提示する。そして実習に必要な知識を自己学習し実習に臨めるようにする。また、事前課題の内容に不足がある場合は、再提出とする。 実習で活用できるように自身で工夫すること。大切・重要な箇所にはアンダーラインやマーキングすること。 【学内実習について】 実習初日は、学内実習を行う。 術中・術後の看護に関するDVDを視聴する 術後の帰室時の援助、術後1日目の離床の方法についての演習を行い、実習に向けての学習を行う。 そのため、必要な観察や援助ができるように復習すること。その他の学内実習については、面談、記録の整理、不十分な技術においては自己練習を行う。 【臨地実習について】 ・周術期にある患者を受け持ち、病棟実習のほか、原則、手術室見学を行う。また、学生カンファレンスを行い、看護診断/看護上の問題、看護計画、看護援助について検討する。実習記録の提出は、主体的に随時提出すること。実習記録の不足がある場合は、再提出とする。
能動的な学びの実施	・術後帰室時の看護実践が行えるよう実習初日の学内実習では、術後帰室時の看護演習を行う。 ・毎日の臨地実習後には、患者の看護診断や援助方法について検討するために、カンファレンスを行う。また、他の学生が体験したことを共有し、看護援助や看護師の役割、継続看護についての理解を深める。
授業時間外の学修	1. 事前課題について（45時間程度） ・指示された課題を期日までに提出すること。 ・事前課題のコメントをもとに不足している部分について、実習前までに追加してくること。 2. 成人看護援助論 -1（2年次・前期）の教科書・資料を読み、整理し、実習で活用できるように準備すること（5時間程度）。 3. 成人看護援助論 -2（3年次・前期）の看護過程の関連図やアセスメント、看護計画についての復習を行い、実習で活用できるように準備すること（5時間程度） 4. 実習中について（毎日2～3時間程度） ・翌日の行動計画の立案、ケアの手順書の準備、日々の記録の記載などを行う。
教科書・参考書	必要時、担当教員が提示するが、成人看護援助論、専門基礎科目（生体機能学、栄養代謝学、病態治療学、臨床薬理学、臨床検査など）の教科書や講義資料を活用すること。 【参考図書】 1. 林直子・佐藤まゆみ（2023）：急性期看護 1—成人看護学 概論・周手術期看護 改訂第4版，南江堂 2. 野崎真由美他（2022）：成人看護学 成人看護技術(改訂第3版)，南江堂 3. 雄西智恵美（2014）：周手術期看護論(成人看護学)，ヌーベルヒロカワ 4. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第3版 5. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 6. 竹内登美子（2019）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護3開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者

教科書・参考書	の看護 第3版 7. 竹内登美子（2015）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護4脳神経疾患で手術を受ける患者の看護 第2版 8. 竹内登美子（2014）：講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護5運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第2版 9. 大滝 周, 大木 友美（2018）：周術期看護 学習ワークブック, メヂカルフレンド社 10. 中村美和子監修（2022）：周術期看護 安全・安楽な看護の実践 改訂第2版, インターメディカ 11. 本庄恵子・吉田みつ子監修（2020）：新訂版 写真でわかる 臨床看護技術2アドバンス, インターメディカ 12. 江川隆子編集（2019）：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（第6版）, ヌーベルヒロカワ 13. 横井和美監修（2017）：実習記録の書き方とポイント—看護過程の展開に沿った, サイオ出版
成績評価方法と基準	事前課題学習（15%）、実習における看護実践（実習記録、実習態度、意欲を含む）およびカンファレンスの参加状況（85%）などから評価する。
課題等に対するフィードバック	1. 事前課題について ・未実施や不足の部分については、担当教員より個別にコメントする。 ・実習前に実施する全体オリエンテーション時、事前課題の不足について説明する。 2. 実習記録について ・実習中の記録に対して随時コメントをする。 3. 実習全体に対して ・面談を通して援助技術、患者へのかかわり、実習態度等についてコメントをする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・実習前に指定された事前課題をしっかり行い、実習に望むこと。 ・実習開始2週間前より健康観察シートに健康状態を記載すること。また、健康面（持病など）、精神面に不安がある場合は、事前に実習担当教員に相談すること。 ・自身の健康管理に留意し、実習を行うこと。また体調面など心配なことがある場合は、担当教員に相談すること。 ・体調不良にもかかわらず担当教員に報告なく実習を継続した場合やSNSへ患者情報や病院情報を漏洩した場合は、実習を停止する場合がある。 ・実習病院または大学の「実習誓約書」に書かれてある内容を遵守しない場合は、実習を停止することがある。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・臨地での実習が実施できなくなった場合は、全て学内実習とし、事例による看護展開の実施の他、対面による学修（演習）及び状況によってはZOOMによるオンライン学修と組み合わせて実施する。 成績評価方法 ・事前課題（20%）や学内実習（対面による学習、課題、看護過程の展開）（80%）

科目名称	老年看護援助論 （日常生活ケア）
授業コード	BK263
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	安川 揚子, 大原 裕子, 山田 正己
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この科目は、加齢や疾病によって健康障害を有する高齢者一人ひとりが豊かな老いを生きられるようなQOLの向上を目指し、個別性を踏まえた質の高い看護を実践するための知識・技術を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この科目は、看護師として高齢者看護における臨床経験を有する教員(安川、大原、山田)が担当する。
到達目標	ディプロマポリシーのひとつである「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」に到達できるように、高齢者のヘルスニーズや社会生活を視野に入れ、その人らしく生きるためのケアを実践するための科学的な専門知識・技術を修得する。
計画・内容	第1回：ガイダンス / 高齢者とのコミュニケーション （安川、看護師） 第2回：高齢者への生活行動援助のための看護技術 清潔・整容のケア （大原、看護師） 第3回：高齢者への生活行動援助のための看護技術 休息のケア （大原、看護師） 第4回：高齢者への生活行動援助のための看護技術 アクティビティケア （山田、看護師） 第5回：高齢者への生活行動援助のための看護技術 排泄のケア （安川、看護師） 第6回：高齢者への生活行動援助のための看護技術 食事のケア （山田、看護師） 第7回：認知症のある高齢者への看護 （安川、看護師） 第8回：介護保険施設における看護 （山田、看護師）
授業の進め方	授業は原則、講義形式で進めるが演習も取り入れる。講義は、教科書と配布資料を中心に行い、随時視覚教材を用いる。また、学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。講義のあとに一部課題を行うことで知識の定着を確認する。
能動的な学びの実施	授業では、学生への質問も活発に行う予定であるため、積極的な授業態度が期待される。さらに、それらを通して自己の学びを深めていく姿勢が望まれる。

授業時間外の学修	予習：各回1時間程度、教科書にて講義範囲を学習する。 復習：各回1時間程度、配布された資料とノートを整理し、教科書の該当箇所を読み返す。
教科書・参考書	教科書：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（メヂカルフレンド社）
成績評価方法と基準	定期試験（80％）、授業後の課題（20％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーの内容を授業に反映させる。また必要に応じて追加の資料を配布する場合もある。
オフィスアワー	Campus Square 参照
留意事項	高齢者の日常生活ケアに関する基本的事項を学ぶ授業であるため、欠席しないこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンラインにて講義・演習を行う。 成績評価方法や基準は対面授業の場合と同様とする。

科目名称	老年看護学実習（病院・施設）
授業コード	BK373
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	3.0
担当教員	大原 裕子, 大西 奈保子, 安川 揚子, 山田 正己
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	健康障害のある高齢者の心理・身体・社会的特性を理解し、高齢者の健康と生活を援助するために必要な知識・技術・態度を修得することを目的とした実習授業である。 実習では、老年期にある人の対象特性に対する理解に基づきその人のニーズを見出して、既習知識・技術を実臨床場面の中で適用・統合し、その人にふさわしい看護過程を展開できる技術・能力・態度を養う。 実習内容としては、高齢者の尊厳・権利・安楽を維持しながら、ADLや精神的健康状態の維持・回復・増進、セルフケア能力の向上、ならびに健康上の問題の予測と予防、対人関係・社会交流の創出に繋げる支援を誠実な態度で検討・実践するとともに、対象者をはじめ関係者と良好な関係を築きながら支援ができる能力の養成に価値を置く。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この科目は看護師として医療機関や高齢者施設にて高齢者看護の実践経験のある教員（大原、大西、安川、山田）が担当する。
到達目標	この科目はディプロマポリシーにある「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族・地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれること」を身につけることをめざし、下記を実習目標とする。 1. 高齢者の心理・身体・社会的特性を理解し、看護過程が展開できる。 2. 高齢者の特性に応じて関わっている多職種の専門性を理解し、連携と協働の中で看護の果たす役割について理解できる。 3. 実習を通して自己の洞察を深め、自己の課題を明確にできる。
計画・内容	原則として65歳以上の入院患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 【実習日程】 1・2・3・4G 2025年9月22日(月)～10月10日(金) 計135時間 15・16・17・18G 2025年10月14日(火)～10月31日(金) 計135時間 11・12・13・14G 2025年11月4日(火)～11月21日(金) 計135時間 8・9・10G 2025年11月25日(火)～12月12日(金) 計135時間 5・6・7G 2026年1月13日(火)～1月30日(金) 計135時間 【指導体制】 各クールとも、大原、大西、安川、山田（全員看護師）が担当する。（非常勤教員を含むこともある） 教員および臨地での実習指導者から指導を受けながら実習を展開する。 【実習病院】 原宿リハビリテーション病院、埼玉みさと総合リハビリテーション病院、 水野記念リハビリテーション病院、等。 各病院の担当教員および学生配置は、別途、事前に連絡する。
授業の進め方	【事前学習】 実習前に老年看護学実習での高齢者の看護に必要な学習項目を提示する。 提示内容をもとに、疾患や看護について自己にて学習しておく。

授業の進め方	【学内実習】 実習初日は学内にて実習オリエンテーションを行う。 必要に応じて、事前学習の確認や学習内容の追加、基礎的な看護技術の確認を行う。 その他、実習に必要な学習内容の補完、実施ケアの準備、記録、面談、実習状況に応じた内容を行う。 【臨地実習】 リハビリテーション病院等に入院している65歳以上の高齢者を原則1人受け持ち、看護過程を展開する。 リハビリテーション病院等における多職種の連携と多職種の中での看護の役割について学習する。 適宜、カンファレンスを行い、看護上の問題、看護計画、看護援助について検討する。 カンファレンスでは他者の学びから自己の学びを深められるようにする。
能動的な学びの実施	臨床現場において患者を受け持ち看護を展開していく中で、自分に必要となる知識・技術・看護専門職としての態度を習得するために、学生は自律的・能動的に学び続ける姿勢が求められる。そのため、教員や臨地実習指導者は学生が出会う臨床場面を教材に多くの質問を投げかける。これにより、学生は自ら思考・内省し学びを深めていく習慣を身につけることができる。 実習プロセスにおいては、カンファレンスの場が適宜設定される。学生が自ら設定することもできる。カンファレンスの場で学生は自己の意見や学びを積極的に発言したり他者の学びを得ることで、学習の深化が期待できる。
授業時間外の学修	【事前課題】 提示された、老年看護学実習での高齢者の看護に必要な学習項目に基づき、主体的に学習した内容は 担当教員に提出すること（実習用ファイルに綴じておくこと） 【実習記録】 実習記録は教員の指導を受けられるよう自己にて適宜進めること。 実習時間外に毎日3時間程度の自己学習が必要となる。 授業時間外の学習に関わる時間は個人の進捗状況により異なる。
教科書・参考書	老年看護学の講義で使用した教科書や授業資料のみでなく、成人看護援助論やリハビリテーション看護論、専門基礎科目（生体機能学、栄養代謝学、病態治療学など）の教科書や授業資料を活用すること。 【参考図書】 ・山田律子,井出訓編：生活機能からみた老年看護過程（医学書院） ・奥宮暁子編著：ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程 第2版（医歯薬出版） ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害（メディカ出版） ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践（メディカ出版） ・正木治恵編：パーフェクト臨床実習ガイド老年看護（照林社） その他、適宜担当教員が指示する。
成績評価方法と基準	実習目標に基づく評価表にて評価し、単位認定する。評価は、事前学習、実習態度・意欲、出欠席、受け持ち高齢者への看護実践、カンファレンスの参加状況、実習記録、ケースレポートから総合的に判断する。
課題等に対するフィードバック	各学生の実習進捗や学習必要性に応じて、その都度、口頭もしくは文章にてフィードバックする。 学内実習中の面談の場においても、学生の課題となっている事項（実習目標に関する学習内容、実施した援助技術、受け持ち高齢者への関わり・関係性の構築方法、実習態度など）についてフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席すること。 心身の健康管理に留意し実習を行うこと。 特に感染症には注意を払い、体調に不安がある場合はすぐに担当教員に報告・相談すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	感染拡大により臨地での実習が困難となった場合は、オンラインを使用した非対面授業も検討する。実習内容が変更になった場合は、変更した実習内容を事前に学生に周知するとともに、評価方法に関しても丁寧にオリエンテーションを行う。成績は別途作成した評価表の基準・配点に基づき評価する。

科目名称	小児看護学概論（8回）
授業コード	BK213
英語名称	Introduction to Pediatric Nursing
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	津田 茂子, 尾近 千鶴
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	急速に変化し多様化する社会の中で、子どもが心身ともに健やかに育むことができる支援をするために、小児看護の基礎となる成長・発達の特徴や生活環境を学ぶ。また、子どもと家族を中心とするケアの理念に基づき、子どもの尊厳・尊重を保証した小児看護の役割を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児を対象とする医療施設や教育機関での勤務経験を有する看護師や行政での訪問事業などでの実務経験を有する教員が、小児看護の基礎となる子どもの特徴・こどもを取り巻く社会・環境・人権などについて実務経験を活かし実際の場面や状況を示しながら講義を行う。
到達目標	・小児看護の基礎となる、子どもの特徴・成長発達・子どもを取り巻く環境（家族を含め）・子どもの人権等を発達理論・発達評価・法律などを応用し、理解する力を身につける。 ・カリキュラムポリシーにおいて「対象の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職としての倫理的姿勢を持ち、また看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を習得する」ことを目指すために、小児看護学分野の基礎を理解する。
計画・内容	1．ガイダンス、小児看護の対象・役割：津田 看護師 1) 小児看護の対象と特徴 2) 小児看護の目標と役割 2．子どもの成長と発達：津田 看護師 1) 成長発達を学ぶ意義 2) 発達領域と進み方 3) 発達区分 4) 発達評価 5) 栄養 3．子どもの成長と発達：津田 看護師 ・子どもに関連した諸統計、それらを表す図表からみる子どもの成長発達 ・発達理論 ボウルヴィの愛着理論、ピアジェの認知発達理論、エリクソンの発達理論 4．家族の特徴とアセスメント：津田 看護師 1) 現代家族の特徴、役割変化 2) 子どもにとって家族とは（グループワーク） 3) 家族をアセスメントする意義 4) 病気（障がい）がある子どもを持つ家族 5．子どもと家族を取り巻く社会：尾近 看護師 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 特別支援教育 5) 臓器移植法と現状 6．小児看護における倫理：津田 看護師 1) 子どもの権利 2) 医療現場での倫理的配慮

計画・内容	7. 小児看護における倫理 : 津田 看護師 1) 子どもの人権を守る -1 虐待の現状、虐待の要因と対応策 -2 発達障害（自閉症等）をもつ子どもの人権 予習：新聞等から虐待や発達障害に関する情報収集する 8. 小児看護における課題 : 津田 看護師 1) 高度複雑化する小児医療とその課題 -1 治療の継続と子どものQOL -2 在宅医療 -3 小児病棟の存続 2) 小児看護の専門分化 予習：テキストの該当部分に目を通す 復習：テキストの該当部分・配布資料を見直す
授業の進め方	講義およびグループワークで授業を展開する。 授業の進行状況によっては、授業内容や進度を変更する場合がある。 授業終了時には、リアクションペーパーを提出する。 テキストは必ず持参すること。
能動的な学びの実施	授業内で確認テストを行い、理解度の振り返りを行うこともある。 課題についてディスカッションを行い、発表する。
授業時間外の学修	予習：毎回提示した内容を予習する（毎回1時間程度）。 復習：教科書や提示したプリントと関連付け、講義ノートなどを作成し内容を理解するための復習をする（毎回2時間程度：課題レポートの場合もある）。
教科書・参考書	教科書：小児看護学 1 第14 版 医学書院 2023年 参考書：国民衛生の動向最新版
成績評価方法と基準	筆記試験（90％）、レポート（10％）、授業の出席状況などを総合し評価する。
課題等に対するフィードバック	授業内またはリアクションペーパーでの疑問や難しいと感じていることに対しては、次回の授業内でフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	1. 配布資料は、ファイリングし授業に持参すること。 2. 遅刻20分以上で欠席（1コマ）扱いとし、20分未満の場合は2回で欠席1回の扱いとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業となることもある。課題学修を組み合わせで実施する。 成績評価：授業中課題50％と期末レポート（50％）で評価する

科目名称	小児看護学実習
授業コード	BK358
英語名称	Pedatric Nursing
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	岡村 千鶴, 尾近 千鶴, 津田 茂子, 西村 実希子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	小児看護学概論および小児看護援助論における学習をもとに、あらゆる発達段階の子どもの健康上の問題を理解し、子どもとその家族に必要な看護を実践する基礎的能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育所および小児病棟において小児期にある子どもを受け持ち、子どもと家族に必要な看護実践を行うために、小児病棟での実務を経験した教員が指導を行う。
到達目標	この科目は、カリキュラム・ポリシーの1つである「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考力を習得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護実践、看護の発展科目を配置する」に基づき、専門分野の「看護実践」科目に位置づけられる。 小児看護の臨床の場で、座学で学んだ知識や技術を関連づけ活用し、実践することを目標としている。 特にディプロマポリシーの「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」および「看護の発展に貢献しうる看護専門職者としての主体的学修能力を身につけている」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職者として倫理的行動がとれる」を目指し、以下を到達目標とする。 1. 成長・発達の側面から子どもを理解し、成長・発達を支援する生活援助ができる。 2. 子どもとその家族に必要な看護問題を認識し、発達および健康状態に適した看護を実践できる。 3. 地域で暮らす障がいのある子どもと家族の日常生活や支援について、理解し、地域ケアにおける小児看護の在り方について理解できる。
計画・内容	1. 実習期間：2週間 詳細は実習配置表にて別途提示する。 2. 実習時間：原則として 保育所；9：00～16：00 病棟；8：30～15：30 特別支援学校；8：30～15：30 3. 実習計画及び実習場所 1) 保育所実習（2日間）：足立区内の保育園（別途提示） 2) 病棟実習（学内2-3日、臨地4日、計6-7日間） (1) 初日（学内1日）：オリエンテーション・技術演習 (2) ～ のいずれかの施設で臨地実習 埼玉県立小児医療センター 東京慈恵医科大学葛飾医療センター 獨協医科大学埼玉医療センター 3) 特別支援学校見学実習（1日間）

計画・内容	4) 最終日(学内): 関連図カンファレンス まとめのカンファレンス・記録の整理 4. 担当教員: 津田茂子・岡村千鶴・尾近千鶴・西村実希子(全員看護師) 5. 2単位: 90時間
授業の進め方	1. 保育所実習について ・実習施設長(園長)と日程調整をした上で、事前訪問を行い園のオリエンテーションを受ける。 ・2日間の実習中は、担当保育士および看護師の指導を受けながら、保育活動に参加する。 2. 病棟実習について ・小児期にある患児を1名ないし2名受け持つ。 ・基本的には学生4~5人に対して教員(非常勤教員を含む)1人を配置し、教員(非常勤教員を含む)および病棟スタッフの指導を受けながら、受け持ち患者と家族の看護を実践する。 3. 特別支援学校見学実習について ・事前に本学で養護教諭及び副校長による事前オリエンテーションを受ける。 ・見学実習当日は、目的意識を持ち、2~3人ずつが看護師について見学を行う。午後の自立訓練の時間は、教員およびスタッフの指導のもと参加する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、保育園、特別支援学校、病院での実習を行う。
授業時間外の学修	1. 事前課題 ・指定された課題について、計画立てて行い、期日までに提出する。 2. 実習期間中 ・実習スケジュール(要項参照)に沿って、タイムリーに記録を行う。 ・記録の整理や疾患や検査などの学習に日々2~3時間は要する。
教科書・参考書	1. 小児看護学概論で使用した教科書及び資料、参考書 2. 小児看護援助論 〃 で使用した教科書及び資料、参考書 3. 内山 聖監修: 標準小児科学 第8版(2018), 医学書院 等専門書を参考にする
成績評価方法と基準	1. 学則に準じて、出席すべき日数の3分の2以上の出席があったものについて評価する。 2. 学則の評価基準に準じ、実習内容、実習記録、自己評価等の結果を総合して評価表に基づき評価する。 保育園実習(10%) 病院実習(90%)
課題等に対するフィードバック	1. 事前課題について ・不足の部分や理解に乏しい部分は、個別にコメントしたり、演習やグループワーク時に説明を加える。 2. 実習記録、実習中の追加学習に関しては、毎日個別にコメントする。 3. 実習全体に対して、個別に面接したり、カンファレンスでコメントしたりするなど、フィードバックしていく。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	詳細は小児看護学実習要項参照 体調管理には十分注意し、特に感染症の季節には徹底した自己管理を行う。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	実習の進め方 学内実習とZOOMを組み合わせ実施する。 成績評価方法と基準 ・学則に準じて、出席すべき日数の3分の2以上の出席があったものについて評価する。 ・学則の評価基準に準じ、学習内容・記録(75%)、態度(25%)等の結果を総合して評価表に基づき評価する。

科目名称	母性看護援助論 （周産期の基礎）
授業コード	BK258
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	藤井 美穂子, 北井 喜美恵, 藤田 聡子, 長田 知恵子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、周産期における正常な経過にある母子（妊産婦及び胎児・新生児）とその家族の特徴と援助について学ぶ。 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的変化と心理・社会的特徴を理解するとともに、ウェルネス思考について学ぶ。さらに母子とその家族の健康の維持・増進と健康回復のための医学的基礎知識について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員3名は、看護師・助産師としての経験を活かし、エビデンスに基づいた最新の情報をを用いて講義を行う。藤田先生は現役の産婦人科医であり、臨床医の立場を生かした豊かな講義を行う。
到達目標	この科目はディプロマポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」及び「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」ために、看護の専門性を学ぶ科目の1つであり、以下の5つを目標としている。 1．妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的変化及び心理・社会的特徴について理解できる。 2．妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康維持・増進のための援助を行うために必要な医学的基礎的知識が理解できる。 3．妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康状態に影響を及ぼす要因について、及び健康からの逸脱について理解できる。 4．母親及びその家族がより健康に子育てが出来るように、退院後に困らないような知識・技術が提供できるための知見を得ることができる。 5．看護者としての自己の深化を図るために、ウェルネス思考を理解する。
計画・内容	第1回 ガイダンス 妊娠期における看護 妊娠期の身体的特性 （妊娠の生理、胎児の発育とその生理、母体の生理的变化） 担当：藤井、長田（助産師） 第2回 妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント、妊婦健康診査（NSTの判読含） 担当：長田（助産師） 第3回 分娩期における看護 分娩の要素、分娩の経過、分娩による母体・胎児への影響、産婦の身体的・心理的・社会的変化 担当：藤井（助産師） 第4回 分娩期における看護 産婦と家族の看護 担当：藤井（助産師）

計画・内容	第5回 産褥期における看護 産褥期の概念、産褥期の身体的変化 担当：新任教員（助産師）藤井（助産師） 第6回 産褥期における看護 産褥期の心理・社会的変化、保健指導 担当：新任教員（助産師）藤井（助産師） 第7回 産褥期における看護 母乳育児（乳房・乳頭の解剖生理、乳汁分泌のしくみ 母乳育児支援の実際）担当：藤井（助産師） 第8回 産褥期における看護 退行性変化や正常経過から逸脱した褥婦の支援 担当：藤井（助産師） 第9回 新生児の特徴と生理的变化 担当：藤井（助産師） 第10回 正常新生児の看護 担当：藤井（助産師） 第11回 妊娠期・分娩期の異常、ハイリスク妊娠、異常妊娠、ハイリスク分娩 担当：藤田（産婦人科医師） 第12回 産褥期、新生児期の異常 担当：藤田（産婦人科医師） 第13回 周産期の異常のまとめ 担当：藤田（産婦人科医師） 第14回 妊娠期における看護 演習 （妊娠経過に関するアセスメント、妊娠期の生活支援、妊婦と家族の看護、 親性準備教育 / 妊娠期に必要な技術演習） 担当：新任教員、藤井、長田（助産師） 第15回 妊娠期における看護 演習 （妊娠経過に関するアセスメント、妊娠期の生活支援、妊婦と家族の看護、 親性準備教育 / 妊娠期に必要な技術演習） 担当：新任教員、藤井、長田（助産師）
授業の進め方	1．講義を中心に行い、教科書に沿ってすすめていく。講義では適宜、資料の配布及び視聴覚教材を用いる。予習を行っていることを前提に講義を行う。 2．授業の進行状況により授業内容・進度を変更する場合がある。予習・復習は各自の責任において行う。
能動的な学びの実施	・適宜演習を実施する。演習では、グループ分けを行い、課題についてグループメンバーとディスカッションし、解決策を導いていく。
授業時間外の学修	【予習】教科書の講義に該当する箇所と講義資料を読む（各回1～2時間程度）。 【復習】講義のポイントを踏まえながら、教科書と講義資料を関連付け、自分の資料を整理する（各回1～2時間程度）。母性領域では、独特な専門用語や表現があり、そのことを熟知しておくことで、実習時にも活かすことができる。
教科書・参考書	〔教科書〕 ・森恵美 他（2021）：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論、第14版第1刷、医学書院 〔参考書〕 ・太田操 編著（2017）：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版、医歯薬出版株式会社 ・荒木勤（2008）：最新産科学、正常編 改定第22版、文光堂 ・医療情報科学研究所（2021）：病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア

成績評価方法と基準	試験（課題レポート10%、期末試験90%）100%
課題等に対するフィードバック	・意見や質問、感想に対しては、次回講義の中もしくは掲示板を利用してフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	・提示された教科書は実習、演習でも活用するため必ず購入すること。 ・本科目は3年次の母性看護援助論 に繋がるものである。十分に理解・修得をすることで、母性看護援助論 での看護過程が理解でき、演習やケアの実践に繋がるため、積極的に取り組むこと。 ・母性看護学は性や生殖に関する内容を扱う領域であり、教員が作成する資料や動画が本学習の目的以外に使われることの無いよう、取り扱いには十分注意する。仮に、講義内容や動画が学外へ流出する等の問題が発覚した場合は、単位認定を検討する。 * 20分以上の遅刻3回で1回の欠席扱いとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 講義の進め方は変わらない。ZOOMやYou-Tubeによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する 2. 試験はWeb上にて、Forms等を使用して実施する。 3. 成績評価方法と基準は変わらない。

科目名称	母性看護学実習
授業コード	BK359
英語名称	Maternity Nursing practice
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	長田 知恵子, 北井 喜美恵, 藤井 美穂子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	母性看護学実習では、母性看護の機能と役割を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性および新生児の特徴を観察し、その順調な経過を促進する援助の実際について学ぶ。主に褥婦および新生児あるいは妊婦（胎児）を受け持ち、母児の看護過程を展開し、ウェルネスの視点に基づいた看護援助を学ぶ。また、地域における母子および女性を取り巻く地域施設における現状を理解し、看護実践ならびに看護職の役割について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師を目指す上で必要な周産期の主な対象である妊婦（胎児）・産婦・褥婦・新生児とその家族への援助の実際について、実習施設の助産師、看護師、産科医である実習指導者および看護師・助産師として臨床経験のある担当教員が協働して指導にあたる。
到達目標	当科目はディプロマポリシーに示された「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門的知識・技術を有している」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」の実現のため、カリキュラムポリシーに示された「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する」方針のもと以下の5つを目標としている。 1．妊娠期・分娩期・産褥期にある女性および新生児の特徴を理解し、アセスメントを通して正常な経過を促進する援助について理解できる。 2．妊娠・分娩・産褥各期および退院後の支援から看護の連携について、家族を含めた母性看護の役割・機能を理解し、社会資源の活用について考えることができる。 3．生命の尊重およびプライバシーの保護、守秘義務などの倫理に関する理解を深め、看護者としての姿勢について考えることができる。 4．生命の誕生・尊厳について考え、母子相互作用や母親役割獲得過程の理解を通して自己の親性観を深めることができる。 5．地域における母子保健活動ならびに女性、男性、多様な性への支援における実際を理解し、保健医療福祉における看護職の役割を考えることができる。
計画・内容	1．実習期間 2025年9月22日（火）～ 2026年2月20日（金） 上記期間内で、1クール2週間（90時間）の実習を行う。 2週間の実習の内訳は、病院実習、臨地実習、実習のまとめ等を計画している。詳細は7月の領域別実習オリエンテーションで説明を行う。 2．実習施設 病院実習 東葛病院 東京女子医科大学附属足立医療センター 東京北医療センター 東京ベイ・浦安市川医療センター その他関連施設 地域実習

計画・内容	ひな助産院、助産婦石村、いぶき助産院、ノア助産院などの助産院 子育て支援施設 男女共同参画のための総合的な施設など 3．実習方法 母性看護学実習の目的・目標に基づき母性看護学実習を行う。 詳細は、母性看護学実習要項を参照。 4．担当教員 ・看護師・助産師として臨床経験のある母性領域の教員である藤井・長田・新任教員が、グループ毎に2週間継続して実習を担当する。 ・状況により、周産期施設において看護師・助産師として臨床経験のある非常勤教員が臨地における指導を担当する場合もある。 実習施設および担当教員についての詳細は、7月の領域別実習オリエンテーションおよび実習開始前の直前オリエンテーションにて発表する。
授業の進め方	1．領域別実習オリエンテーション 母性看護学実習概要、必要書類等の提出について説明する。 2．7月下旬（予定）領域別直前オリエンテーション 実習施設紹介、誓約書記入、実習記録記載についての確認、事前課題提示、健康診断提出等について説明する。 3．各実習施設において、2週間（90時間）の実習を実施 実習初日：グループ毎の学内オリエンテーションおよび看護技術の確認を行う。 2日目～：各実習施設で実習を行う（詳細は母性看護学実習要項を参照）。 実習最終日：学びの成果についてグループごとにパワーポイントを用いて発表および学びの共有を行う。 各個人の評価面接を行う。
能動的な学びの実施	1．医療チームの一員としての自覚を持ち、主体的に実習に臨む。 2．グループメンバーとディスカッションすることで学びを共有し（カンファレンスに限らず）、実習指導者・担当教員へ積極的に関わることで学びを深める。
授業時間外の学修	1．事前課題（7～8時間程度） ・実習前に自己の課題達成のために必要な事前学習を行う。 ・詳細な学習内容については、事前オリエンテーションで提示する。 2．実習中の時間外学習（毎日3～4時間程度） ・実習中に不足を自覚した内容や指導者・教員から提示された課題について学習する。 ・当日の実習内容を振り返り、翌日の行動計画を立案する。 ・受け持ち対象者の看護過程の展開を行う。
教科書・参考書	既履修科目である母性看護学概論、母性看護援助論 ・ において使用した教科書・資料、学習内容、関連する文献等を有効活用する。
成績評価方法と基準	実習時間が充足されている者に対し、母性看護学実習評価表に基づき評価を行い、単位認定とする。
課題等に対するフィードバック	実習記録は指定された期日に担当教員へ提出し、評価面談にてフィードバックを得る。状況により実習時間内外で適宜面談を行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・本科目の履修に際しては、母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論 の単位を修得していること。 ・実習先によってはワクチン接種(インフルエンザワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチン、水痘ワクチン、ムンプスワクチン)を必須としている施設がある。アレルギーなどで接種できていない学生は7月下旬で行われる領域別実習オリエンテーションで必ず申し出ること。

留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 実習施設の状況および感染状況に応じて実習の進め方は検討する。 2. 成績評価方法は変更しないが、実習評価表は変更する場合がある。

科目名称	精神看護援助論 （ケアの方法論）
授業コード	BK252
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	宮城 純子, 板橋 直人
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	精神看護学の考え方、精神の健康と障害について行動科学、社会学的視点からの基本的理解を通して、精神看護学の基盤となる患者－看護師関係、精神看護学倫理、日本におけるメンタルヘルスの現状や福祉に関する現状について学ぶとともに、今後の課題について考察する。 精神看護学概論で得た知識を基礎に、この科目でさらに精神看護における基礎的知識を重ねて得た後、セルフケアに関するアセスメントスキルを修得します。他者との協調・協働などのチームワーク力を高めます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目では、精神看護領域において看護師としての臨床経験のある教員およびそれぞれの専門領域をもつ実務経験のある非常勤講師が講義・演習を行います。
到達目標	本科目では、ディプロマポリシーの「科学的な根拠に基づき対象者の健康と生活の質を高める看護を实践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得できる」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを实践する基礎的能力を有している」ことを達成するために、以下の3項を到達目標とします。 1．精神保健の基本的な考え方および現代社会のメンタルヘルスについて知識を獲得する。 2．精神看護学や看護学の基礎となる人間理解のための知識の統合ができる。 3．自分と他者との相違点を理解し、他者が置かれている立場を理解する。
計画・内容	第1回【オリエンテーション】司法精神看護 担当：宮城（看護師） 第2回【精神疾患の理解と看護】統合失調症の理解と看護 担当：板橋（看護師） 第3回【精神疾患の理解と看護】統合失調症の理解と看護 /小児精神病 担当：板橋（看護師） 第4回【精神疾患の理解と看護】双極性障害の理解と看護の理解と看護 担当：板橋（看護師） 第5回【精神疾患の理解と看護】パニック障害・強迫症の理解と看護 担当：板橋（看護師） 第6回【精神疾患の理解と看護】パーソナリティ障害・摂食障害の理解と看護 担当：板橋（看護師） 第7回【精神疾患の理解と看護】6.依存症の理解と看護 担当：宮城（看護師）

計画・内容	第8回【当事者の体験】アルコール依存症当事者の体験（依存症当事者） 担当：宮城（看護師）：依存症当事者 第9回【精神疾患の理解と看護】精神科での身体ケア 担当：宮城（看護師） 第10回【精神科における看護理論】セルフケアモデル・オレムアンダーウッド理論 担当：板橋（看護師） 第11回【理論と活用】1．オレムアンダーウッドのセルフケアモデル 担当：板橋（看護師） 第12回【理論と活用】事例検討解説 担当：板橋（看護師） 第13回【当事者の体験】精神障害者をもつ家族の体験（当事者家族） 担当：板橋（看護師）・家族会に所属するご家族 第14回【地域生活と看護】4.精神科訪問看護 担当：宮城（看護師） 第15回【地域生活と看護】精神科リハビリテーション 担当：板橋（看護師）
授業の進め方	基本的に3部構成で組み立て進めます。 1．基本的精神看護に関する講義 ：視覚教材を用いることもあります。 2．演習 ：事例を用いて、精神科でよく使われるセルケアモデルとアセスメントについて深めます。 3．当事者の社会参加活動の紹介 ：講義・演習を通じて、学生に発表を求める機会もあります。
能動的な学びの実施	事例を用いた「セルフケアのアセスメント」は、学びを活用して、自らの積極的な学習を期待します。
授業時間外の学修	合計30時間程度 【予習】教科書の巻・章を提示してある回は、熟読してください 別途指示のある回：それに従ってください。 指示のない回：タイトルまたはキーワードを基にテキストを読んでください。 【復習】配布資料や授業中に書き留めたメモをまとめ、ノートを作成してください。
教科書・参考書	【教科書】 1．精神看護学 精神保健・多職種のつながり 南江堂 2．精神看護学 臨床で活かすケア 南江堂 【参考書】 1．看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社 2．系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院
成績評価方法と基準	成績評価は、到達目標に記載した内容の理解度によります。 リフレクションシートには、学んだこと、疑問に感じたこと、自分の学びに関する課題などを記載してください。（記載内容が、講義内容にに応じているかどうかの確認により、出席の確認も兼ねます） 【成績評価方法と基準】 1．筆記試験：70点 2．レポート：30点

成績評価方法と基準	
課題等に対するフィードバック	・「リフレクションシート」の記載内容は、次回の授業時に反映します。 ・大学から割り当てられた学籍番号のメールアドレスにフィードバックを送る場合もあります。 ・後日、別途資料を配布する場合もあります。
オフィスアワー	・ Campus Square 参照 ・ 質問などをメールにて受けます。
留意事項	先行履修科目を、2年前期「精神看護学概論」とします。 疾患に関する周辺領域（治療学など）は、3年前期「病態治療学」で履修しますので、治療に関わる部分は予習が重要になります。 援助技術に関することは、3年前期「精神看護援助論」につながっていきます。 精神看護学における患者理解と看護方法を学び、精神看護の知識の修得を目指します。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	【授業の進め方】 原則として、シラバス通りに進めます。 方法は、ZoomによるOn Timeでの対応とします。 入室時「学籍番号 氏名」を画面に出してください。 入室後チャットに「学籍番号 氏名」を記入してください。 講義中、時々画面に顔を出すことを依頼する場合があります。 リフレクションシートの提出は、Campus Square にUPとします。 【成績評価の方法と基準】 （１）筆記試験：Campus Squareを用い、Forms もしくは、紙媒体・電子媒体に回答したものをCampus Square にUPする方法をとる予定です。 （２）レポート提出：変更の予定はありません。 １．筆記試験：70点 ２．レポート：30点

科目名称	精神看護援助論 （ケアの技術・演習）
授業コード	BK311
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	板橋 直人, 仲條 潤樹, 吉見 聖伸, 宮城 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	精神看護学の考え方、精神の健康と障害についての行動科学、社会学的視点からの基本的理解を通して、精神看護学の基盤となる患者－看護師関係、精神看護学における倫理的場面、日本におけるメンタルヘルスの現状や福祉に関する現状について学ぶとともに、今後の課題について考察する。同時に、精神科における治療特性を踏まえて行動制限について講義・演習を通して考察する。本科目は精神科に看護師として勤務経験のある担当教員が、精神科における特性を踏まえて講義と演習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は、精神科看護を实践する上で必要な精神看護学の基盤となる、患者－看護師関係における自己理解と対象理解、精神科におけるコミュニケーション、病棟内での安全等に関する看護技術の講義を行う。教員とゲストの非常勤講師の全員が、精神科病棟での看護師として実務経験を有している。その経験をもとに、精神疾患を持つ患者とのコミュニケーションの取り方や、精神科における行動制限を行う上での安全とは何かについて考察する。特に行動制限は、患者の安全と権利を脅かす可能性があるため、その利点と欠点を理解できるように、各教員が実務で培った経験と知識を使って講義・演習を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーで示された「2.対象の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職としての倫理的姿勢を涵養する科目を配置する」や、精神医療における「4.看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の实践、看護の発展科目を配置する」に属している。また、ディプロマポリシーに示す「6.対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職としての倫理的行動が取れる」ようになるために、以下の3点を到達目標とする。 1．精神看護学や看護学の基礎となる人間理解のための知識の統合ができる。 2．自分と他者との相違点を理解し、他者が置かれている立場を理解する。 3．患者の人権を尊重し、行動制限の意味を考え、倫理的行動、看護援助の方法を追求することができる。
計画・内容	第1回 【オリエンテーション】、援助的人間関係 自己理解と対象理解（プロセスレコード） 担当教員：板橋（看護師） 第2回 精神看護の实践 精神科訪問看護における援助の実際 担当教員：板橋（看護師）、宮城（看護師）、仲條潤樹（看護師） 第3回 援助的人間関係 コミュニケーション技法 担当教員：宮城（看護師） 第4回 精神看護の实践 退院促進と援助の実際 担当教員：板橋（看護師）、宮城（看護師）、吉見聖伸（看護師）

計画・内容	第5回 精神看護の実践 行動制限と安全 担当教員：板橋（看護師） 第6回 行動制限と安全（演習および討議） 担当教員：板橋（看護師）、宮城（看護師）、角田（看護師） ・Aグループは行動制限の演習を行う ・Bグループは行動制限に関する動画を見てそれに関する討議（レポート作成）を行う 第7回 行動制限と安全（演習および討議） 担当教員：板橋（看護師）、宮城（看護師）、角田（看護師） ・Aグループは行動制限に関する動画を見てそれに関する討議（レポート作成）を行う ・Bグループは行動制限の演習を行う 第8回 まとめ 担当教員：板橋（看護師）、宮城（看護師）、角田（看護師）
授業の進め方	基本的に講義と演習の2部構成で組み立て進めていきます。 1.精神科看護における実践および援助的人間関係に関する講義 ：視聴覚教材を用いることもあります。 2.行動制限と安全に関する演習 ：病院で実際に使われている備品を用いて、グループ編成を行い行動制限の実際を体験し、安全を保つための援助を実践する。それを踏まえ、相互に評価しあい、多面的に物事を考えられる機会や対象者の権利や人権を尊重した倫理的行動、看護援助の方法を追求する機会を提供する。演習を通して学生に発表を求める機会もあります。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションを行うため、積極的な態度が期待される。特に、第5回講義（精神看護の実践 行動制限と安全）を元に、第6回・第7回の演習を行うため、第5回の講義内容を復習した後に演習に参加する必要がある。
授業時間外の学修	・授業時間外の学習（合計30時間程度） 予習：指示のある場合はそれに従ってください。指示のない回は、タイトルまたはキーワードに関してテキストを熟読してください。 復習：配布資料や授業中に書き留めたメモをまとめ、ノートを作成する。
教科書・参考書	教科書： 精神看護学 精神保健・多職種のつながり 南江堂 精神看護学 臨床で活かすケア 南江堂 参考書： 「看護実践のための根拠がわかる精神看護技術」 メヂカルフレンド社
成績評価方法と基準	・成績評価方法と基準 レポート 25 %（演習時における） 定期試験 75 %
課題等に対するフィードバック	・課題等に対するフィードバック ・リアクションペーパーの内容を授業に反映させさせたり、資料配布を行う。
オフィスアワー	・CampusSquareを参照 ・メールでの質疑応答（対面での実施が難しい場合）。 ・窓口教員：板橋、宮城
留意事項	事前に2年生後期「精神看護援助論」を履修していることとします。

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	【授業の進め方】 原則として、シラバス通りに進めます。 方法は、ZoomによるOn Timeでの対応とします。 入室時「学籍番号 氏名」を画面に出してください。 入室後チャットに「学籍番号 氏名」を記入してください。 講義中、時々画面に顔を出すことを依頼する場合があります。 リフレクションシートの提出は、Campus Square にUPとします。 【成績評価の方法と基準】 (1) 筆記試験 (7 5 %) : Campus Squareを用い、Forms もしくは、紙媒体・電子媒体に回答したものをCampus Square にUPする方法をとる予定です。 (2) レポート (2 5 %) : レポートの課題の視点を提示しそれに基づいて記述する予定です。
---	---

科目名称	精神看護学実習
授業コード	BK360
英語名称	Mental Health Nursing practice
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	宮城 純子, 板橋 直人
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	現在精神を病み外来通院をしている方は300万人とも500万人とも言われています。疾患の原因となるストレス耐性は、生育過程や加齢にも影響し人生の危機的状況にも影響します。私たちが精神的健康を維持するためには、精神疾患の知識を身につけ早期治療を心がけるとともに、過酷な環境に対する力強い耐性を身につけ環境を調整しストレスを乗り越える力をつけていく必要があります。そこで、この実習では以下の3点に焦点を当て経験を通し対処能力を身につけます。 1)精神障害を持つ人達と関わることで、心の健康を維持する予防的視点を身につける。 2)治療の現場で行われる早期退院を目指した看護の視点を身につける。 3)デイケアを通じて、対処能力をつけるためのリハビリテーションの視点を身につける。本科目の担当教員は精神科に看護師として勤務経験を持ちその経験と技術を活かしながら精神科における特性を踏まえた実習指導を行う。教育課程内での位置づけは、専門科目（専門分野）の中の看護の実践である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師を目指す上で必要な、精神看護学における講義を踏まえた上での実践にあたる科目である。この実習では看護師として臨床経験を持ち、かつ精神科看護師としての臨床経験のある教員が担当する。
到達目標	本科目は、カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶ」ことに基いて、ディプロマポリシーに示す「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する基礎的能力を有している」「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有している」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」を目指し以下に到達目標をあげる。 1) ストレスフルな社会の中で、精神疾患を発症した意味が理解でき、精神疾患の予防の意味、早期発見と早期治療の意味、早期退院の意味、リハビリテーションの意味、再発しない生活の意味を実習を通して学び、実習の最後にプレゼンテーションを行い、知識と経験をまとめることができる。 2) 複数の施設での実習を経験することで、地域社会が行う精神保健に関する施策の重要性を考え、自分の言葉でまとめることができる。 3) 病院から退院、社会復帰と新しい健康的な人生の創造までを見聞きする中で、広い視点で看護を考える力と病院から地域を作るための看護を発信できる能力を身につけ、今後の看護経験に生かすことができる。
計画・内容	精神看護学実習 1クール2週間 計90時間 (病院または地域施設1週間、地域施設他資料館見学各 1～2日) 1)精神科病棟または地域施設での実習4日間(担当教員：板橋・宮城または非常勤教員) 個人の日常生活の調整だけでなく環境の調整も必要であり、患者から話を聴くだけでなく、関係づくりを行いながら観察し、治療や治療後の経過、社会生活における状況などの情報収集をおこないます。 2)デイケア、作業所または就労支援施設実習2日間(担当教員：板橋・宮城または非常勤教員) 退院後の患者がリハビリテーションのために通う施設です。患者の目的達成のために看護としての関わり

計画・内容	と専門職の態度に着目していきます。 3)資料館見学1日間 (担当教員：板橋・宮城または非常勤教員) 精神医療に関する資料館を見学し、とくに歴史と人権、および治療の実際について考えます。 5)学内まとめ (担当教員：板橋・宮城または非常勤教員) 患者との関係構築の方法や、精神科病棟、精神科に関連する地域施設、歴史や人権についてディスカッションを行い、学びを深めます。
授業の進め方	看護学実習要項・実習要項 精神看護学 参照 精神科病棟実習4日間、地域施設実習、資料館の見学を行います。最終日はディスカッションを行い、学びを深めます。グループによっては、病棟実習が地域施設実習に代わる可能性もあります。
能動的な学びの実施	グループディスカッションの中で、新しい学びを吸収して下さい。学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な態度が期待されます。
授業時間外の学修	実習前に、患者との関係性の構築方法、精神保健福祉法、内服薬の作用副作用、など他課題について取り組んでください。実習中は常に、バイオ・サイコ・ソーシャルな視点から対象患者に関する疾患や、アセスメントなど、患者理解に努めて下さい。(合計60時間前後)
教科書・参考書	【教科書】(2年次購入済み) 特に指定しないが、「心とストレス」「精神看護学概論」「精神看護援助論1,2」で使用したテキスト、ノートとする。 【参考書】 1. ナーシングポケットマニュアル 精神看護学
成績評価方法と基準	評価表をもと評価を行い、単位を認定します。 1 実習目標の達成度、実習状況、提出物 (70%) 2. カンファレンス参加度 (30%)
課題等に対するフィードバック	実習中、適時フィードバックを行います。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	1. 看護学実習要項・実習要項 精神看護学を熟読してください。 2. 全体オリエンテーション・直前オリエンテーションで必要事項を確認してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面時の授業の進め方と成績評価方法と基準 zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施します。 記録物50%、参加状況(参加度)50%で評価します。

科目名称	公衆衛生看護方法論 - 1 (成人・老年・産業)
授業コード	BK220
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	高木 悦子, 古保 理子, 岡林 知代子, 糸井 和佳
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	公衆衛生看護学概論で学んだ知識をもとに地域看護学の具体的活動を中心に教授し、講義や演習を通して、公衆衛生看護活動の意義を理解する。個人や家族に対するハイリスクアプローチとしての方法や、予防的な方法論として、ポピュレーションアプローチを学び、健康課題の特性に応じた介入方法と技術についても学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公衆衛生看護の実践について、保健師経験があり研究業績がある本学の教員（糸井；保健師一元特別区保健師、高齢者学会、高木；保健師一元特別区保健師、元国立病院助産師、古保；保健師一元埼玉県八潮市職員）産業保健（岡林；保健師－東京海上日動火災人事企画部ウェルネス推進課主任・産業カウンセラー）を実践している看護職から実践例を含めて講義を行う。
到達目標	本学のディプロマポリシーの「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している。」を目標とし、カリキュラムポリシーの「6. 地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培うための科目を配置する。」として、多様な健康レベルや看護実践能力を養い、地域包括ケアシステムの要として活躍できる能力を培うために、1～6の到達目標を目指す。 1. 公衆衛生看護活動の場と看護職者の役割 2. 成人期の住民の健康相談の方法が理解できる。 3. 地域高齢者のニーズならびに生活状況、健康課題の把握と介護予防を理解できる。 4. 地域精神・障がい者（児）の支援の方法を理解できる。 5. 産業活動の方法を理解できる。 6. 地域におけるグループの理解と健康課題への支援の方法を理解できる。
計画・内容	第1回：【オリエンテーションと障害者保健活動】障害者保健施策と障害者の生活特性と自立支援 担当教員 高木悦子 第2回：【学校保健活動】保健教育と保健管理・養護教諭の支援方法 担当教員 糸井和佳 第3回：【成人保健活動】わが国の成人保健施策の現状 担当教員 高木悦子 第4回：【成人保健活動】特定健診、特定保健指導とNCDs対策 担当教員：高木悦子 第5回：【成人保健活動】企業における成人期の人々に対する健康管理の実践 担当教員 岡林知代子 古保理子 第6回：【高齢者保健活動】介護保険制度と後期高齢者医療制度 担当教員 糸井和佳 第7回：【高齢者保健活動】地域における高齢者保健と地域包括ケアシステム ・地域における高齢者の見守り 担当教員 古保理子 第8回：【歯科保健活動】地域における歯科保健の現状と歯科保健活動 担当教員 高木悦子

授業の進め方	・教科書を中心に授業を進めるので、必ず購入すること。 ・学習を深めるためのプリントを配布する。
能動的な学びの実施	該当しない。
授業時間外の学修	・授業時に配布されたプリントを復習すること（各回1時間程度） ・成人保健、高齢者保健、産業保健、学校保健、歯科保健、障害者保健に関係する授業についての基礎的な知識を予習すること（各回1時間程度）。
教科書・参考書	【教科書】 第6版公衆衛生看護学.jp 鳩野洋子 神庭純子 インターメディカル 2024 【参考書】 厚生指針 国民衛生の動向（厚生統計協会）2024/25 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 2018
成績評価方法と基準	定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	・課題プリントの必要箇所については授業内で解説を行う。 ・リアクションペーパーの内容を参考に授業への反映を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	必修科目であり、公衆衛生看護方法論（必修）の前提科目となる。出欠2/3のカウントのうち、遅刻については2回を1回欠席とみなす。カードリーダーでない判断の必要がある場合は、担当教員の判断とする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合 授業の進め方 Zoomを用い、時間割通りの時間帯にオンライン授業を実施する。 演習はZoomを用いて個別対応を取り入れながら実施する。ZoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示、またはメールに添付し配信する。 成績評価方法と基準 Zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績（100%）で評価する。

科目名称	公衆衛生看護学実習
授業コード	BK408
英語名称	Public health nursing Practice
学期	2025年度前期
単位	5.0
担当教員	糸井 和佳, 古保 理子, 本田 順子, 高木 悦子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本実習は、公衆衛生看護概論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護演習、公衆衛生看護演習 および保健医療福祉行政論の学習をもとに、地域で生活する個人・家族・集団・組織を対象とした健康課題を分析し、課題解決に向けた公衆衛生看護活動を展開する基礎的能力を養う。 保健所・保健センター、学校保健、産業保健の実習施設において、5週間の実習を行い、保健師の実践能力を養う。詳細は、公衆衛生看護学実習要項を参照
科目に関連する実務経験と授業への活用	保健師経験のある教員（糸井和佳、高木悦子、古保理子）が、その経験をもとに、実習指導者とともに実習指導を行う。
到達目標	この科目は、ディプロマポリシーの「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を实践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力の修得」の該当科目であり、カリキュラムポリシーの「地域の健康課題の解決のための個人・家族・集団・地域への継続的支援ならびに住民のニーズを施策化できる保健師教育」に該当する。 また、専門科目（専門分野）、「看護の实践」のひとつである。 到達目標を達成するために、下記の具体的目標を掲げた。 1. 保健所・保健センター実習 1) 地域の健康状態をアセスメントし、地域で生活する人々の顕在化、潜在化しているニーズや健康課題を明らかにすることができる。 2) 健康課題を解決するために、保健事業を企画・立案、実施、評価する過程を理解することができる。 3) 個人・家族・集団・組織を含む地域の健康課題を解決する手法（家庭訪問、健康教育、健康診査、健康相談、地区組織活動等）を理解する。 4) 事業化・施策化に必要な根拠とプロセスを理解する。 5) 社会資源の開発や地域ケアシステムを構築するための方法を理解する。 6) 健康危機に対する組織的な管理やシステム構築の必要性について理解する。 7) 保健・医療・福祉および社会に関する知識と技術を主体的・継続的に学び、保健活動の質を向上させるための方策を考える。 2. 学校保健実習 1) 学校教育および学校組織を理解する。 2) 児童の発達課題に応じた健康課題を理解する。 3) 保健管理や健康課題解決のための方法を理解する。 4) 養護教諭の役割を理解する。 3. 産業保健実習 1) 産業保健活動の目的と組織を理解する。 2) 労働衛生管理を理解する。 3) 健康課題と労働・職場特性と関連付けて考える。 4) 産業看護職の役割を理解する。

到達目標	
計画・内容	・実習単位：5単位 5週間 保健所・保健センター実習4週間、学校保健実習2日、産業保健実習1日 ・実習期間：2025年6月～7月 実習要項参照 ・実習時間：原則として、8時30分～17時30分 実習要項参照 ・実習施設： 【保健所・保健センター実習】 足立区、葛飾区、台東区、杉並区、目黒区 担当教員：系井和佳（保健師）、高木悦子（保健師）、古俣理子（保健師） 【学校保健実習】 足立区内小学校 担当教員：系井和佳（保健師）、高木悦子（保健師）、古俣理子（保健師） 【産業保健実習】 内田洋行健康保険組合 コクヨマーケティング株式会社コーポレート本部人事部 セキスイハイム工業(株)東京事業所健康相談室 日鉄ソリューションズ株式会社 大東建託株式会社 担当教員：系井和佳（保健師）、高木悦子（保健師）、古俣理子（保健師）
授業の進め方	実習要項および各実習施設の実習予定表に基づき、実施するが、実習オリエンテーションにて詳細を説明する。
能動的な学びの実施	5週間の実習であり、学生の行動すべては能動的な学びが必須である。実習中に住民に対して行われる健康教育は、能動的な学びを強く期待される。
授業時間外の学修	実習中に学んだことの理解を深めるために、毎日の学修は必須である。実習予定表に基づき、必要な内容を各自で予習し、終了後は復習を求める。 実習外学修時間：5週間実習期間中に100時間程度
教科書・参考書	特になし 今までの関連科目の教科書、参考書、授業プリントを活用する
成績評価方法と基準	評価は実習終了後に行う。 実習要項に準じ、実習記録（50％）、実習最終レポート（30％）実習に対する主体性・積極性（20％）等などにより、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	実習期間中は、随時、指導を行い、学生からの質問に対しても随時、対応する 中間カンファレンス（複数回）、最終カンファレンスにおいて、フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。メールで相談可能 itoi@ntu.ac.jp
留意事項	保健師教育課程の学生は必須であるが、保健師教育課程以外の学生は履修できないので、留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価」	実習の進め方 ・実習日程については、実習施設と協議の結果、詳細を決めていく。 ・施設実習日数に変更があった場合は、ZOOMによる演習や動画配信等により学内実習で補完する。

評価方法と基準」	成績評価 ・態度（20％）、学内実習課題レポート（80％）で評価する。
----------	--

科目名称	在宅看護援助論（日常生活ケア）
授業コード	BK254
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	田中 博子, 安田 耕平, 橋本 容子, 白坂 誉子, 福井 郁子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	在宅看護は、健康上の課題を抱えて地域で生活する小児から高齢者までを対象としている。授業は、視聴覚教材を用いたり、最前線で活躍する訪問看護師や理学療法士による授業を取り入れ、様々な療養者に応じた日常生活援助について学ぶ。授業を通して、療養者と家族が安心して住み慣れた地域（居宅）で生活していけるための支援のあり方を考えていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、病院・訪問看護ステーションで看護師としての実務経験のある教員、地域で理学療法士として訪問リハビリの実務経験のある教員、および訪問看護・地域密着型通所介護において摂食・嚥下障害看護認定看護師として実務経験のある看護師が担当する。
到達目標	この科目は、専門科目の「看護援助の方法」の一つである。カリキュラム・ポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得する」「地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培う」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーに掲げる「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有している」をめざし、以下に到達目標をあげる。 1.要支援者および、脳血管疾患、認知症、摂食・嚥下機能の低下、低栄養状態など療養上の課題を抱えて生活する要介護者に対して、対象の状態に合わせた日常生活支援のあり方について説明することができる。 2.独居、家族と同居など要支援者・要介護者の生活状況に応じた社会資源・福祉用具の活用について説明することができる。 3.在宅療養者が自分らしい療養生活が継続できるためのケアマネジメント、多職種連携の在り方について考察することができる。
計画・内容	第1回 在宅療養者のヘルスアセスメント 担当教員：橋本容子（看護師） 第2回 在宅療養支援技術 - 訪問に向けた接遇と面接技術 担当教員：田中博子（看護師） 第3回 在宅療養支援技術 - 脳血管疾患をもつ療養者と家族への日常生活援助 担当教員：福井郁子（看護師） 第4回 在宅療養支援技術 - 認知症をもつ療養者と家族への日常生活援助 担当教員：田中博子（看護師）

計画・内容	第5回 在宅療養支援技術 - 要支援高齢者と家族への日常生活援助 担当教員：福井郁子（看護師） 第6回 在宅療養支援技術 - 低栄養、摂食・嚥下障害をもつ療養者と家族への日常生活援助 担当教員：白坂 誉子（摂食・嚥下障害看護認定看護師） 第7回 在宅療養支援技術 - 在宅療養者の移動・移乗に関する在宅看護技術 演習 担当教員：安田耕平（理学療法士）田中博子（看護師）福井郁子（看護師） 第8回 在宅療養支援技術 - 独居高齢者への日常生活援助 担当教員：橋本容子（看護師）
授業の進め方	・基礎看護学、老年看護学等で学んだ知識や技術を活用しながら療養者が生活している場で看護する方法を講義・演習形式で学ぶ。 ・パワーポイントを活用し、テキストおよび配布資料にそって授業をすすめる。 ・適宜、学生と教員間でディスカッションを行う。 ・在宅における看護場面の理解を助けるために視聴覚教材を活用する。 ・授業終了後にはリフレクションペーパーの提出を求める。
能動的な学びの実施	授業は、学生への質問を行いながら進める予定であるため、積極的な態度を期待する。
授業時間外の学修	・予習・復習として授業で学んだことをふまえ、テキストから課題を出す。 ・復習は、授業中、配布資料等にかきとめたことをテキストを活用して確認し、ノートに整理する。（各回1時間程度）
教科書・参考書	・尾崎章子,佐野けさみ編著：地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社 2021 ・このテキストは在宅看護援助論 ・ ・在宅看護学実習 ・ でも使用する。 ・必ず購入し授業時には持参する。 【参考書】授業中に紹介する。 【資料】授業の際に配布する。
成績評価方法と基準	課題学修：リフレクションペーパー（10％） 定期試験（90％）
課題等に対するフィードバック	・リフレクションペーパーの記載内容は次回の授業に反映させる。 ・学生からの質問については次回の授業でフィードバックする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	在宅看護学は病院看護と異なり、療養者が暮らしている場所に出向いて看護をするという、学生にはイメージし難いところがある。したがって、できるだけ視覚的な教材を使っていく予定である。授業を通して在宅看護活動に興味・関心をもってほしい。主体的な学習の促進のために、予習・復習を設定している。これらは成績評価に反映させるので、1つ1つ丁寧に取り組んでほしい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面となった場合 授業の進め方 ・zoomによる授業と課題学修を組み合わせで行う。 成績評価方法と基準 ・課題学修（10％）定期試験（90％）で評価する。 ・定期試験は、formsにて行う。

科目名称	在宅看護学実習（訪問看護ステーション）
授業コード	BK374
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	田中 博子, 福井 郁子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	訪問看護ステーションにおける看護活動への参加を通して、在宅で疾病や障害をもちながら生活する人々と家族を総合的に理解し、多職種と連携・協働してその人々を支援する訪問看護師の役割を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	実習指導においては、看護師としての臨床経験および訪問看護師としての経験のある教員が担当する。
到達目標	この科目は、専門分野の「看護の実践」の1つである。カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶ」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族・地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」をめざし、以下に実習目的と実習目標をあげる。 【実習目的】 訪問看護ステーションにおける看護活動への参加を通して、在宅で疾病や障がいをもちながら生活する療養者と家族を理解し、多職種と連携・協働してその人々を支援する訪問看護師の役割を学ぶ。 【実習目標】 1.在宅で疾病や障がいをもちながら生活する療養者と家族を理解する。 2.療養者はどのような生活環境で療養しているのかを理解する。 3.療養者と家族がどのように生活したいかを把握し、その実現をめざした訪問看護の実際を理解する。 4.訪問看護ステーションにおける多職種との連携・協働の必要性と訪問看護師の役割を考察する。
計画・内容	臨地実習 在宅看護学実習 要項P2参照 1) 実習時間 原則として9:00～17:00（実習施設の状況に応じる） 2) 実習日程 2025年9月22日（月）から2026年2月6日（金）の期間で8日間 1週目 月曜日：午前 学内でオリエンテーション 午後 訪問看護ステーション現地オリエンテーションおよび臨地実習 火～木曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問） 金曜日：学内実習 9：00～16時まで 同行訪問で学んだことを整理する 2週目

計画・内容	月～水曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問） 木曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問）および最終カンファレンス 金曜日：学内実習 9：00～学びのまとめ、報告会 17：00 記録提出締切 【報告会のねらい】 在宅看護学実習で経験したことを振り返り、メンバーと対話することを通して、在宅で疾病や障がいを持ちながら生活する療養者と家族への訪問看護師の役割について理解を深めていく。
授業の進め方	臨地実習 在宅看護学実習要項P2に示す。 1.オリエンテーション 1) 事前オリエンテーション 自己紹介シートおよび事前学習課題の確認 実習を効果的、円滑に行うため、実習目的、実習内容については在宅看護学実習を精読しオリエンテーションに臨む。 2) 学内オリエンテーション 実習初日に学内で全体オリエンテーションを受け、その後、施設別オリエンテーションを受ける。 3) 実習施設内オリエンテーション 実習初日の午後、指示された時刻までに実習施設に到着し、オリエンテーションを受ける。 2. 同行訪問 1) 同行訪問する療養者に関しては、記録および実習指導者からの説明によって情報を得る。 2) 自己の目標が到達できるよう行動する。 3) 在宅ケアチームの一員として訪問看護はどのような役割を果たしているのかを学ぶ。 3. 教員の支援 教員は学生が訪問看護ステーションにいる時間（朝・昼食時・夕方のいずれか）に伺うため、その際に学びの状況を報告し、学びを深めていく。
能動的な学びの実施	同行訪問後は訪問看護師に対して学びを報告し、必要に応じて質問したり意見交換を行うため、積極的で主体的な態度が期待される。
授業時間外の学修	1) 事前学習課題は提示された内容を調べ、期日に提出する。 2) 実習中は同行訪問を通じて学んだことを記録に整理する。 3) 同行訪問した療養者の疾病および、利用している社会資源について調べ理解を深める。 4) 実習の振り返り、調べ学習として1日60分から90分は時間をとり翌日の実習に備える。
教科書・参考書	講義で使用したテキスト、配布した資料を活用して学んだことを整理する。
成績評価方法と基準	・評価は、在宅看護学実習 の評価表で行なう。 【配点】 療養者と家族の理解（18点）、生活環境の理解（18点）、訪問看護の理解（34点）、多職種連携の理解と訪問看護師の役割についての考察（20点）、学習者としての行動（10点）の配点で評価する。 ・評価の対象となる記録は以下に示す。 訪問看護ステーションの概要 同行訪問看護記録用紙（毎日の記録） 療養者が望む生活およびケア計画 訪問看護以外での学びの記録 学びのレポート
課題等に対するフィードバック	担当教員は学生とともに療養者宅に訪問しないため、学生は実習の目的と目標をよく理解して実習に臨む。同行した訪問看護師から質問されたことで答えきれなかったこと、自身が不足していると思えた知識

課題等に対するフィードバック	などについては自己学習を行い深めていく。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・在宅看護学実習 は、訪問看護ステーションの利用者（ステーションの顧客）の好意で、自宅に学生を迎え入れて頂くことで成り立っている。それは第一に利用者様の好意によるものであるが、その好意は、訪問看護ステーションへの信頼、訪問看護師に対する信頼があってこそのものである。したがって、学生は訪問にあたって、訪問看護師が日々の実践を通して積み上げてきた信頼を損なうことがないよう、誠意をもって実習に臨んでほしい。 ・訪問看護を通して在宅療養の場には、その家の暮らし方、生き方、家族関係、環境など固有の生活空間があることに気づいてほしい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 同行訪問を通して学んだことをふまえ、在宅で生活を送る療養者および家族介護者に対して果たす訪問看護師の役割を考察する。 成績評価方法と基準 評価は、在宅看護学実習 の評価表で行なう。 【配点】 療養者と家族の理解（18点）、生活環境の理解（18点）、訪問看護の理解（34点）、多職種連携の理解と訪問看護師の役割についての考察（20点）、学習者としての行動（10点）の配点で評価する。

科目名称	家族看護論
授業コード	BK285
英語名称	Family Nursing
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	藤井 美穂子, 大西 奈保子, 板橋 直人, 福井 郁子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	家族の形態や家族のあり方は多様化していることに加え、家族を取り巻く保健医療福祉の状況は複雑化している。看護を学ぶうえで、家族看護学を基盤とした家族支援は、保健医療福祉における看護職だけでなく、多職種にも求められている。核家族化、少子化、高齢化、女性の就労などの現状から、家族看護においては、出産・育児および、心身の疾病・障がいをもつ人々の介護（養育）に関わる家族をいかに支えるかということが大きな課題となっている。本科目では、家族システム理論および家族ストレス対処理論を用い、個人や家族が自分らしく、よりよい健康を保持増進するために必要な看護について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、病院や施設等で看護師・助産師としての実務経験のある教員が担当する。
到達目標	科目は、専門科目の「看護の発展」の一つである。ディプロマ・ポリシーの「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」をめざし、カリキュラムポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得する」に対応する科目である。以下に到達目標をあげる。 1.家族の概念について時代による変化をとらえ現代家族の諸問題について自分の考えを述べることができる。 2.家族システム理論および家族ストレス対処理論を事例に基づき活用することができる。 3.家族の発達段階と基本的発達課題に合わせた支援のあり方を理解することができる。 4.地域で暮らす個人や家族が、自分らしくよりよい健康を保持増進するための看護のあり方について考察することができる。
計画・内容	第1回：家族とは、家族形態と家族のもつケア機能 担当教員：藤井（助産師） 第2回：家族看護の理解：家族看護の定義、家族を理解するための諸理論 担当教員：藤井（助産師） 第3回：家族看護の理解：家族看護過程の展開、代表的なアセスメントモデル 担当教員：藤井（助産師） 第4回：新婚期（新しく家族が誕生するとき）の家族への看護 担当教員：藤井（助産師） 第5回：養育期から教育期の家族への看護 自宅で暮らす障がいをもつ子どもを養育している家族への看護を中心に 担当教員：福井（看護師） 第6回：分離期から成熟期の家族への看護 精神疾患をもつ人と生活をしている家族への看護を中心に

計画・内容	担当教員：板橋（看護師） 第7回：成熟期から完結期 ターミナル期の家族員のいる家族への看護 担当教員：大西（看護師） 第8回：まとめ 担当教員：藤井（助産師）
授業の進め方	・パワーポイントを活用し、教科書および配布資料にそって授業をすすめる。 ・適宜、学生と教員間でディスカッションを行なう。 ・課題を基にグループワークを行う場合もある。 ・授業終了後には、リアクションペーパーの提出を求める。
能動的な学びの実施	・学生への質問も行うため、積極的な態度で授業に臨むことを期待している。 ・ドラマ・映画・マンガに出てくる家族、自身の家族から、家族とは何かを考えておく。
授業時間外の学修	・予習として、教科書や参考書を予め読んでおくこと。（各回1時間程度） ・復習として、配布資料等に基づきまとめたことを教科書を活用して確認し、ノートに整理する。（各回1時間程度）
教科書・参考書	教科書 ・上別府圭子著：別巻家族看護学 医学書院 2024 参考書： ・国民衛生の動向2023/2024 ・小林奈美著：グループワークで学ぶ家族看護論 第2版 医歯薬出版 2015 ・鈴木和子、渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践 第4版 日本看護協会出版会 2017 ・渡辺裕子監修：家族看護を希望とした地域・在宅看護論 第5版 日本看護協会出版会 2021
成績評価方法と基準	・課題学修：リアクションペーパー（20％）定期試験（80％）で評価する。
課題等に対するフィードバック	・リアクションペーパーの記載内容は次回の授業に反映させる。 ・学生からの質問については次回の授業でフィードバックする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・配布資料はファイリングし、整理して持参する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによる授業と課題学修を組み合わせで行う。 成績評価方法と基準 ・課題学修：リアクションペーパー（20％）定期試験（80％）で評価する。 ・定期試験は、formsにて行う。

科目名称	認知症ケア論
授業コード	BK414
英語名称	Dementia care Theory
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	安川 揚子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	わが国は、2025年に団塊の世代が75歳以上となり、どの国も経験したことのない超高齢社会を迎える。認知症をもつ人は700万人を超えることが予測されている。そのため、認知症のある人とその家族が、安心して居心地の良い地域環境で、最期まで暮らし続けられるよう支援していくことが求められる。本科目においては、認知症のある人の理解と、その人たちに実践するケアについて思考していくことをめざす。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、看護師として認知症ケアに携わった経験のある教員が担当する。
到達目標	この科目は、専門科目の「看護の発展」の一つである。 カリキュラム・ポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得する」「地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培う」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーに掲げる「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」をめざし、以下に到達目標をあげる。 1．各認知症の特徴と関わり方の基本および、多職種連携のあり方について説明することができる。 2．認知症ケアに特有な倫理的課題を理解し、尊厳を保持するケアを創造することができる。 3．認知症のある人と家族が、安心して最期まで地域で暮らし続けられるための看護職者の役割を考察することができる。
計画・内容	第1回 ・ガイダンス ・認知症ケアの歴史 ・認知症をとりまく状況 第2回 ・認知症のある人と家族への看護 第3回 ・若年性認知症者の理解と家族への看護 第4回 ・認知症のある人とのかかわり方 第5回 ・認知症ケアの倫理 第6回 ・施設における認知症のある人への看護

計画・内容	第7回 ・在宅における認知症のある人への看護 第8回 ・全体のまとめ
授業の進め方	・講義はパワーポイントを活用し、配布資料にそって授業をすすめる。 ・適宜、ディスカッションなどを行う。 ・個人ワーク・グループワークともに積極的な学習態度を求める。 ・授業終了後にはリフレクションペーパーの提出を求める。
能動的な学びの実施	・認知症のある人の事例（動画や資料）をもとに認知症のある人と家族に必要な看護について考える。老年看護援助論 ・ および、在宅看護援助論 での既習学習を基盤とし、臨地実習などで出会った患者（居宅で暮らす療養者）への看護も参考にしながら学習をすすめる。 ・全体のまとめ：他者の意見を聞き、自己の意見を述べていきながら思考を重ね「認知症のある人と家族が、安心して最期まで地域で暮らし続けられるための看護」について自己の意見を確立していく。
授業時間外の学修	・予習・復習として授業に関連する学習内容について、老年看護学や在宅看護学の教科書、授業で使用了資料、紹介した書籍などを読み知識を整理する。 （各回1時間程度）
教科書・参考書	・老年看護学や在宅看護学の教科書を活用する。 ・授業中、教員が紹介する。
成績評価方法と基準	・評価基準は、到達目標にそって評価する。 ・出席状況と授業のリフレクションペーパーの内容（20%） ・課題（50%） ・ディスカッションの参加状況（30%）
課題等に対するフィードバック	・学生からの質問については、その場もしくは次回の授業でフィードバックする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・主体的な姿勢で臨むとともに積極的に意見を述べることを期待している。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによる授業・課題学修・個人ワークを組み合わせで行う。 成績評価方法と基準 ・対面授業と同様の基準で評価する。 ・評価方法を変更する場合には事前に丁寧に説明し、学生の上承を得る。

科目名称	看護管理論
授業コード	BK410
英語名称	Nursing Administration
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大森 美保, 山田 正己, 木所 篤子, 武田 清香
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	医療チームメンバーの一員として、質の高い看護を効果的に提供していくためのマネジメントスキルを学ぶ。そして、組織の一員として、いかに人を大切にし、患者中心の看護活動をするかを学ぶ。 また、学生が自分自身のキャリア形成を考えるとともに、看護専門職としての自律について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	病院で看護師長として実務経験のある教員、認定看護管理者として実務経験のある教員、病院で実務を行う看護部長が、専門職者としての組織論やマネジメント・将来の看護職者としての自己管理などについて講義を行う。
到達目標	この科目は、専門科目の「看護の発展」の科目の一つである。 ディプロマポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有している」ことが実現できるよう、カリキュラムポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展科目を配置する」「地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培うための科目を配置する」方針のもと、以下を目標としている。 1．看護管理と看護管理者の役割を理解する 2．組織とは何かを知り、保健医療福祉サービスを提供する組織の特徴について理解する 3．保健医療福祉制度と看護管理との関連を理解する 4．保険医療福祉サービスを提供する他職種や施設間との連携と看護の役割について理解する 5．専門職として自律するために必要なことを理解し、キャリア形成について考える。
計画・内容	第1回：授業ガイダンス・看護サービスと看護管理（大森：看護師） ・看護管理学の定義 ・看護管理プロセスとPDCAサイクル 第2回：組織と人材育成（山田：看護師） ・組織とは ・看護管理者の役割 ・人材育成 第3回：看護の質保証と看護における診療報酬（大森：看護師） ・医療保険制度と看護における診療報酬 ・重症度、医療・看護必要度 ・質保証とリスク管理 第4回：病院施設における看護管理の実践（木所：看護部長） ・地域社会における病院の役割、機能 ・病院の理念、組織図と看護部の位置づけ、看護部の目標

計画・内容	・人材育成（新人教育、クリニカルラダー、認定・専門・特定行為看護師の育成等） 第5回：看護提供方式（武田：看護師） ・看護提供方式の種類と特徴 ・リーダーシップとメンバーシップとは ・看護チームにおける連携 第6回：組織内連携：チーム医療における多職種連携と看護の役割（大森：看護師） ・専門ケアチームにおける看護の役割 ・クリニカルパスの活用 第7回：組織間連携と継続看護（山田：看護師） ・地域包括ケアシステムでの連携と協働 ・医療介護制度と政策決定過程 第8回：キャリア形成（大森：看護師） ・新人看護職員の支援とクリニカルラダー ・専門職としての自律
授業の進め方	< 授業の進め方 > 1.教科書・資料を基に、パワーポイントを使用した授業を行う。 2.実習等による自身の体験の振り返りと講義内容の統合や、各単元の内容について深く考えまとめる。
能動的な学びの実施	学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	1. 予習：提示された事前学習をまとめてくること（毎回1時間程度）。 2. 復習：授業の内容を整理し、提示された課題に取り組み提出すること（毎回1時間程度）。
教科書・参考書	教科書 1. 手島恵、藤本幸三：看護管理学、自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル、南江堂教科書は持参すること。 参考書 茂野香おる他：看護学概論 基礎看護学 医学書院 上泉和子他：看護管理 看護の統合と実践 医学書院
成績評価方法と基準	4名の教員による課題レポート（70%）と小テスト（30%）を総合し評価する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーに記載された疑問などは、次回の授業内でコメントする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	課題レポートは、忘れずに提出してください。 今までの基礎看護実習 や基盤実習、領域別実習、授業を踏まえ、マネジメントについて自分の考えを持って授業に臨んでください。 20分以上の遅刻は、1回（1コマ）の欠席とする。 20分未満の遅刻は、2回で1欠席とする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ZOOMによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 成績評価方法と基準

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	課題レポート（70%）、小テスト（30%）を総合し評価する。
------------------------------------	--------------------------------

科目名称	看護研究（研究方法論）
授業コード	BK350
英語名称	Nursing Research 1
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大釜 信政, 大原 裕子, 清野 純子, 長田 知恵子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この講義では、これまでに学修した学内および臨地実習での学びを通して、看護に関する課題を見つける力、課題にまつわる文献を収集できる力、集めた文献から批判的吟味をして評価する力、論理的に研究を遂行できる力などについて修得し、看護研究の基本的知識について理解できることに主眼をおく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目では、看護師実務経験のある教員らが看護研究の基本的知識を具体的に教授する。
到達目標	本科目は、看護の専門科目（専門分野）の看護の発展の科目である。カリキュラム・ポリシーに掲げる「豊かな人間性を培い、時代のニーズに適応できる学修能力を養うため、多様な教養科目を配置する」「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展科目を配置する」に基づく。 本科目はディプロマポリシーに掲げる「科学的根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得」することができるよう以下を達成目標とする。 1. 研究の定義や目的について述べることができる。 2. 看護研究の重要性について述べることができる。 3. 看護研究の一般的なプロセスについて述べることができる。 4. 興味のある研究課題に関連した文献を検索できる。 5. 検索した先行研究について、文献整理表を用いて情報をまとめることができる。 6. 先行研究を精査して、記載内容の良い点や足りない点など、自らの意見を述べることができる。 7. 看護研究の全過程において、倫理的配慮の重要性について述べることができる。 8. 看護実践と看護研究との関係を意識して、よりよいケアの探求が研究につながる点について述べるができる。
計画・内容	【第1回】 オリエンテーション 担当：大釜（看護師） 研究とはなにか、看護研究とはなにか、看護研究の重要性について 担当教員：長田（助産師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、看護研究の定義や特徴、看護実践の質の向上にとって必要な看護研究の意義について整理する。 【第2回】 研究デザイン 担当教員：大釜（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、リサーチ・クエスチョンに基づく研究設計やその方法について整理する。 【第3回】 研究論文の構成 担当教員：大原（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、研究論文の構成について理解する。とくに、目的、方法、結果、考察に含める内容を整理する。

計画・内容	【第4回】 医学中央雑誌WebやCiNii Articlesなどによる文献検索方法 担当：大釜（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、文献レビューの目的や文献検索方法について整理する。 【第5回】 量的研究における研究デザイン・概念枠組み、アンケートデータの収集 担当教員：清野（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、量的研究デザイン・概念枠組み、アンケート調査の実施方法について整理する。 【第6回】 量的研究におけるデータ分析と解釈（加二乗検定、T検定、一元配置分散分析） 担当教員：清野（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、量的データとは何か、量的データの分析方法について整理する。 文献レビューの実際 担当教員：大釜（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、特定のテーマに関する文献を網羅的に検索し、研究目的に沿って検討するための実践方法について整理する。 【第7回】 質的・帰納的研究の概要 担当教員：大原（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、質的研究の種類や分析方法の概要について整理する。 【第8回】 質的・帰納的研究論文の実際 担当教員：大原（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料、質的研究論文を用いて、質的研究の特徴について整理する。 【第9回】 研究における倫理的配慮 担当教員：清野（看護師） 予習・復習：テキストや講義資料を用いて、研究における倫理的配慮の原則について整理する。 【第10回】 研究倫理eラーニングコースの受講 演習 担当教員：清野（看護師） 日本学術振興会が提供する研究倫理eラーニングコースを受講する。 パソコンを持参する 【課題1】研究倫理eラーニングコースの受講 日本学術振興会が提供する研究倫理eラーニングコース修了し、修了証書を提出する。提出期限・提出方法については、授業の中で説明する。 【第11回】 文献の読み方 担当教員：大釜（看護師） 予習・復習：テキストや授業資料を用いて、クリティークの目的、文献の読み方、クリティークのポイントについて整理する。 【第12回】 文献クリティークの実際 演習 担当教員：大釜（看護師） 予習・復習：テキストや授業資料を用いて、クリティークの目的、文献の読み方、クリティークのポイントについて整理する。 【課題2】文献クリティーク表の作成 テキスト「医学書院：看護研究」pp.68～70(特に表3-3)とpp.283～298を必ず参照しながら、文献クリティーク表を記載する（手書き）。提出期限・提出方法については、授業の中で説明する。 【第13回】 文献整理表の作成 演習 担当教員：清野（看護師）・大原（看護師）・長田（助産師） 文献整理表の記載方法に関する説明、自らの研究課題に関する文献を検索するためのキーワードの確認、文献検索の実施、検索結果の保存 自らの研究課題に関する文献を検索するためのキーワードの確認、文献検索の実施、検索結果を保存する。
-------	--

計画・内容	担当教員との質疑・応答を通じて、自らの研究課題に関する先行研究論文を検索する。 パソコンを持参する 【第14回】 文献整理表 演習 文献整理表の作成 担当教員：清野（看護師）・大原（看護師）・長田（助産師） 担当教員との質疑・応答を通じて、先行研究論文3編以上を文献整理表にまとめる。 パソコンを持参する 【第15回】 文献整理表 演習 文献整理表の作成 担当教員：清野（看護師）・大原（看護師）・長田（助産師） 担当教員との質疑・応答を通じて、先行研究論文3編以上を文献整理表にまとめる。 パソコンを持参する 【課題3】文献整理表の作成 研究課題に関する文献を3編以上集めて、文献整理表にまとめる。提出期限・提出方法については、授業の中で説明する。
授業の進め方	講義を中心に行うが、文献クリティークや文献整理表の作成では演習を通して学ぶ。 註1)【課題】研究倫理eラーニングは、学生各自で受講する。研究倫理eラーニングの受講修了証書を提出しなかった学生は、4年次看護研究（必修科目）の履修が行えないので注意すること。 註2)【課題1】【課題2】【課題3】を、それぞれ提出期限・方法に従って提出すること。 註3) 演習では、ノートパソコンを持参すると、効率よく作業を進められると思われる。
能動的な学びの実施	研究倫理eラーニングコースを各自で受講する。各自の興味・関心や問題意識に応じて、先行研究について整理する。
授業時間外の学修	予習：1時間程度 復習：2時間程度
教科書・参考書	教科書：坂下玲子 他：系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院 参考書：南裕子編集：看護における研究，日本看護協会出版会 桂敏樹、星野明子：かんたん看護研究、南江堂 大木秀一：量的な看護研究のきほん、医歯薬出版KK
成績評価方法と基準	【課題1】研究倫理eラーニング受講修了証書：40点 期日までにCampusSquareに提出すること 【課題】文献クリティーク表：30点 期日までに2号館1階大釜教員メールボックスに提出すること 【課題】文献整理表：30点 期日までにCampusSquareに提出すること
課題等に対するフィードバック	適宜、講義の中で補足する。
オフィスアワー	「Campus Squareを参照」

留意事項	1. 出席が2/3に満たない学生に対して、当該年度の単位の認定はできない。 2. 研究倫理eラーニングの受講修了書を提出しなかった学生は、4年次看護研究（必修科目）の履修が行えないので注意すること。 3. 課題の提出期限と提出方法を厳守すること。 4. 4年次の看護研究 につなげるための概論であり、看護研究は看護職者になっても重要な分野である点を意識して当該科目を履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoom双方向型で講義・演習を行う。 成績評価方法と基準 提出された課題の内容によって評価する。 【課題1】研究倫理eラーニング受講修了証書：40点 【課題2】文献クリティーク表：30点 【課題3】研究整理表：30点